

平成28年度市民意識調査の集計概要

1. 調査の目的

この調査は、基本構想基本計画で定めた施策の成果指標を測定する手段の一つとして、市民の生活実態や活動状況及び市政に対する関心などを把握するとともに、今後、市民の皆さんとの協働によって市政運営やまちづくりなどの施策を進めるための基礎資料として活用するために実施しました。

2. 調査の設計

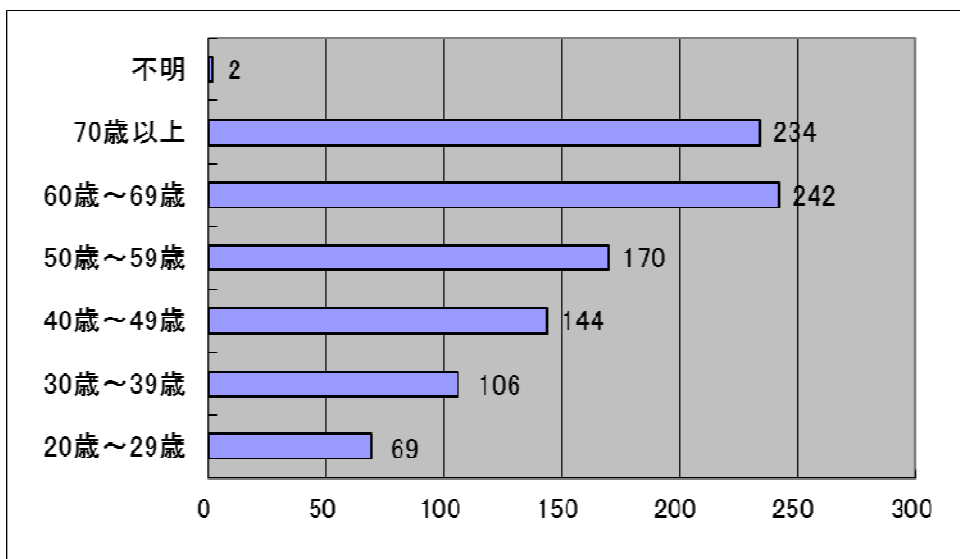
この調査は、次のとおり設計しました。

- (1) 調査対象 飯田市内在住の満20歳以上の男女
- (2) 調査対象者数 2,000人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から地区別、男女別、年齢別人口比率を調整し無作為抽出しました。
- (4) 調査時期 平成29年2月1日～2月28日
- (5) 調査方法 郵送による

3. 回収結果

有効回収数 967人（回収率48.4%）
内訳 男：432人、回収率44.7%
女：530人、回収率54.8% ※性別不明：5人(0.5%)

<年代別回収状況と回収率>



回収率	
70歳以上	69.2%
60歳代	58.0%
50歳代	51.4%
40歳代	38.9%
30歳代	35.3%
20歳代	28.3%

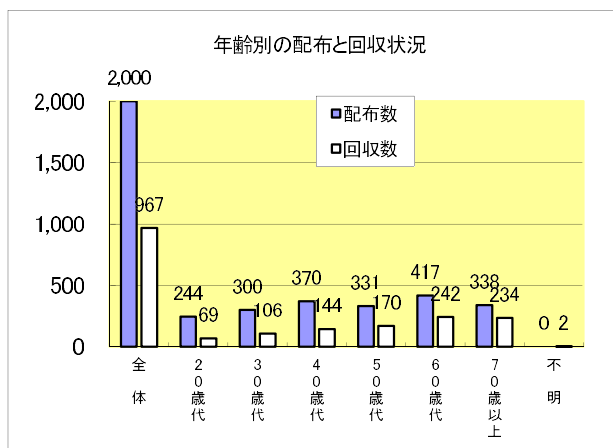
市民意識調査回収状況

問1. あなたの住んでいる地区は

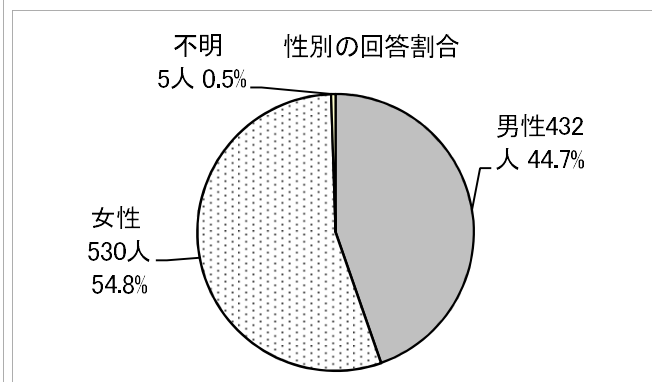
地区別	配布数			回収数				回収率
	男	女	計	男	女	不明	計	
全体	988	1,012	2,000	432	530	5	967	48.4%
橋北	28	31	59	16	13	0	29	49.2%
橋南	26	27	53	10	18	0	28	52.8%
羽場	47	47	94	22	16	0	38	40.4%
丸山	35	33	68	17	16	0	33	48.5%
東野	29	31	60	14	17	0	31	51.7%
座光寺	44	46	90	17	22	1	40	44.4%
松尾	121	131	252	41	67	1	109	43.3%
下久堅	29	29	58	14	16	0	30	51.7%
上久堅	14	12	26	9	4	0	13	50.0%
千代	16	16	32	8	13	0	21	65.6%
龍江	27	27	54	8	17	0	25	46.3%
竜丘	67	64	131	24	34	0	58	44.3%
川路	19	19	38	12	13	0	25	65.8%
三穂	15	14	29	6	11	1	18	62.1%
山本	47	47	94	18	21	0	39	41.5%
伊賀良	139	143	282	57	76	1	134	47.5%
鼎	126	135	261	61	72	0	133	51.0%
上郷	139	141	280	67	71	1	139	49.6%
上村	6	6	12	3	5	0	8	66.7%
南信濃	14	13	27	6	6	0	12	44.4%
不明	0	0	0	2	2	0	4	

問2. あなたの年齢は

年代別	配布数			回収数				回収率
	男	女	配布数	男	女	不明	回収数	
全体	988	1,012	2,000	432	530	5	967	48.4%
20歳代	123	121	244	25	44	0	69	28.3%
30歳代	154	146	300	48	58	0	106	35.3%
40歳代	188	182	370	55	87	2	144	38.9%
50歳代	165	166	331	75	94	1	170	51.4%
60歳代	205	212	417	115	127	0	242	58.0%
70歳以上	153	185	338	113	119	2	234	69.2%
不明	0	0	0	1	1		2	



問3. あなたの性別は

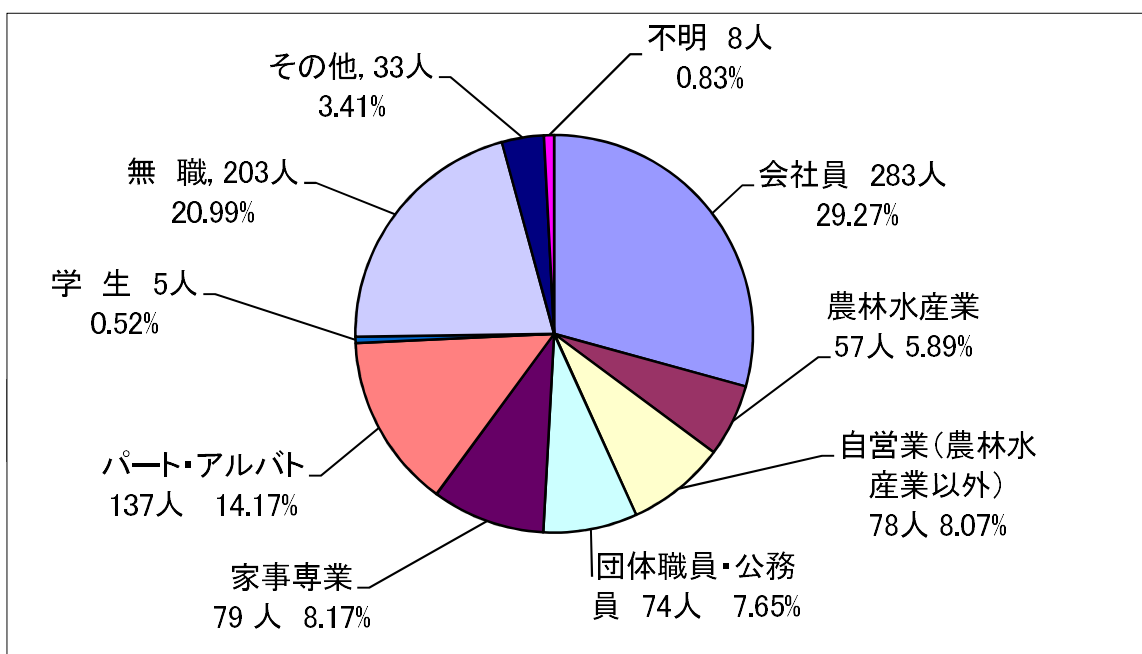


市民意識調査回収状況

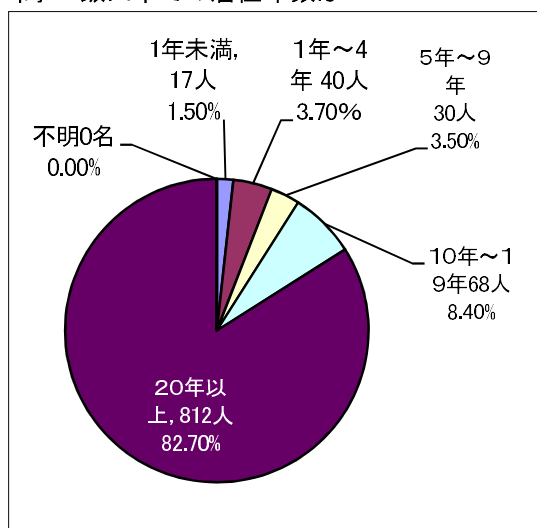
問4. あなたの職業

(人)

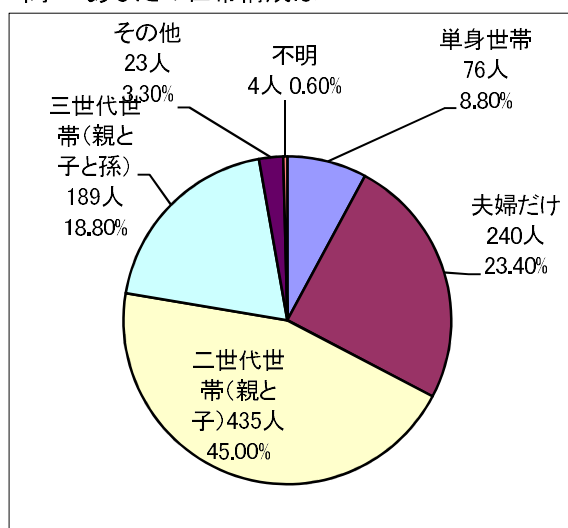
職業区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不明	全体
全体	69	106	144	170	242	234	2	967
会社員	28	49	65	69	55	16	1	283
農林水産業	2	0	3	9	18	24	1	57
自営業(農林水産業以外)	2	5	13	12	20	26	0	78
団体職員・公務員	18	15	17	20	3	1	0	74
家事専業	2	10	9	13	31	24	0	89
パート・アルバイト	8	15	30	31	40	13	0	137
学生	4	0	0	0	1	0	0	5
無職	3	11	5	7	59	118	0	203
その他	2	1	1	9	11	9	0	33
不明	0	0	1	0	4	3	0	8



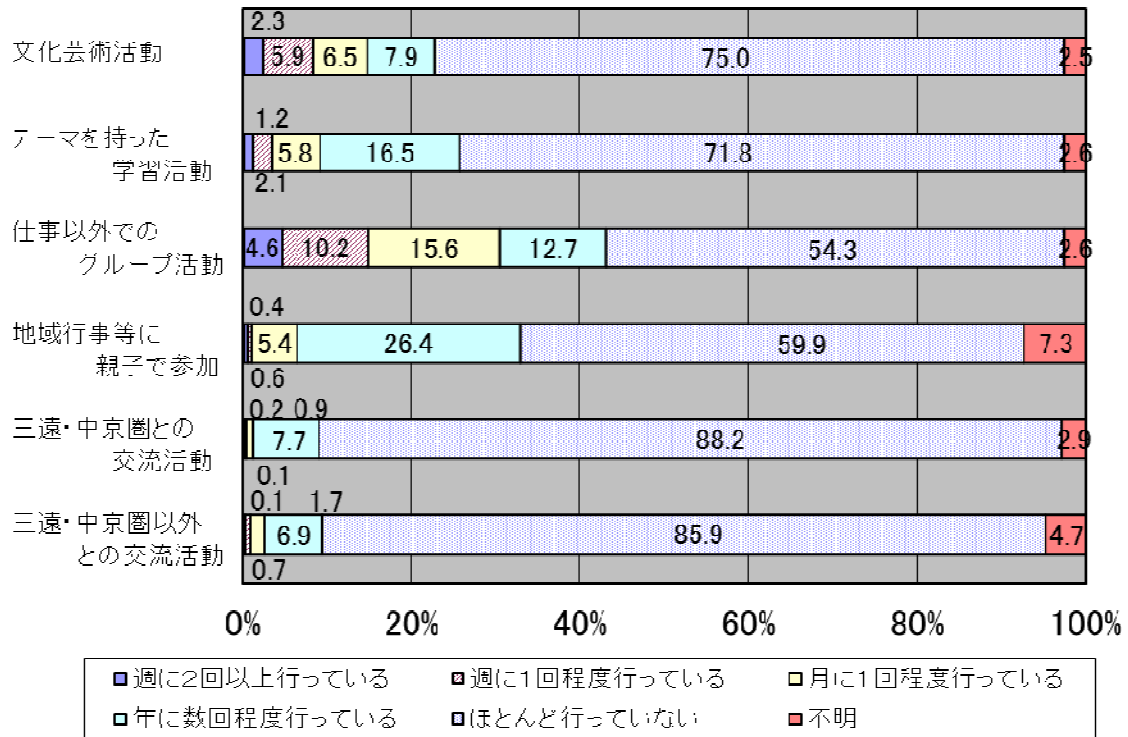
問5. 飯田市での居住年数は



問6. あなたの世帯構成は



日頃の暮らしや行動の傾向



※以後、[] 内は前年度の数値

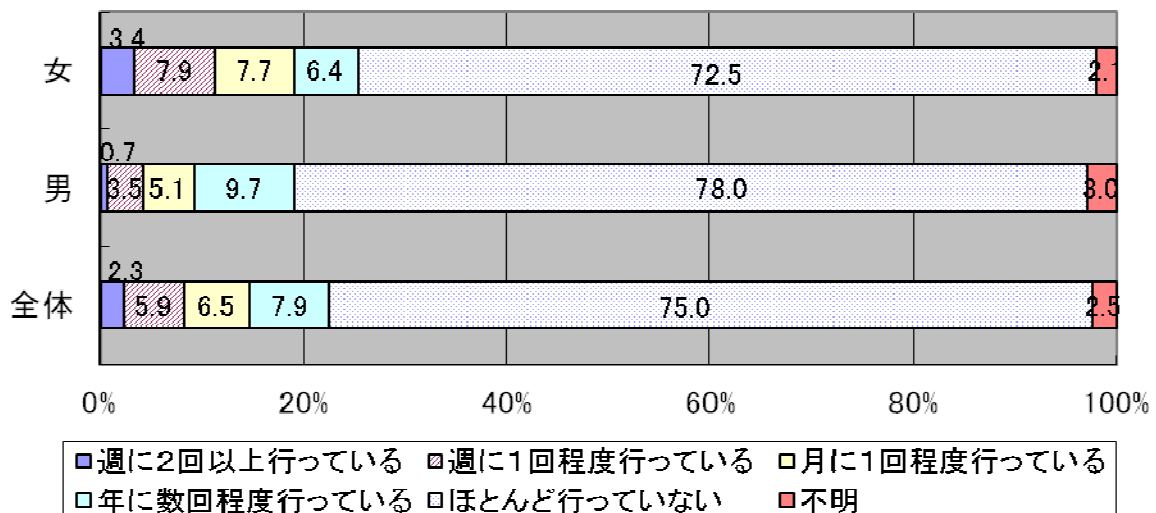
問7-1 文化芸術の活動をどの程度行っていますか？

対象施策：文化芸術の振興
 成果指標：文化芸術活動を行っている人の割合
 調査結果：22.6%（年に数回以上行っている市民の割合） [24.2%]

- 例示として、楽器演奏、コーラス、詩吟、絵画、陶芸、演劇、人形劇、太鼓、民踊、書道、茶道、華道、写真をあげて質問してみたが、「ほとんど行っていない」が75.0% [73.5%] で、年に数回以上活動をしている人の割合22.6% [24.2%]（女性：25.4% [26.9%]、男性：19.0% [21.2%]）を大きく上回っている。

「ほとんど行っていない」割合を年代別で見ると、概ね年齢に比例して率が下降していく傾向にある（最高値：30歳代85.8%、最低値：70歳代62.0%）。

文化芸術活動の頻度（男女別）

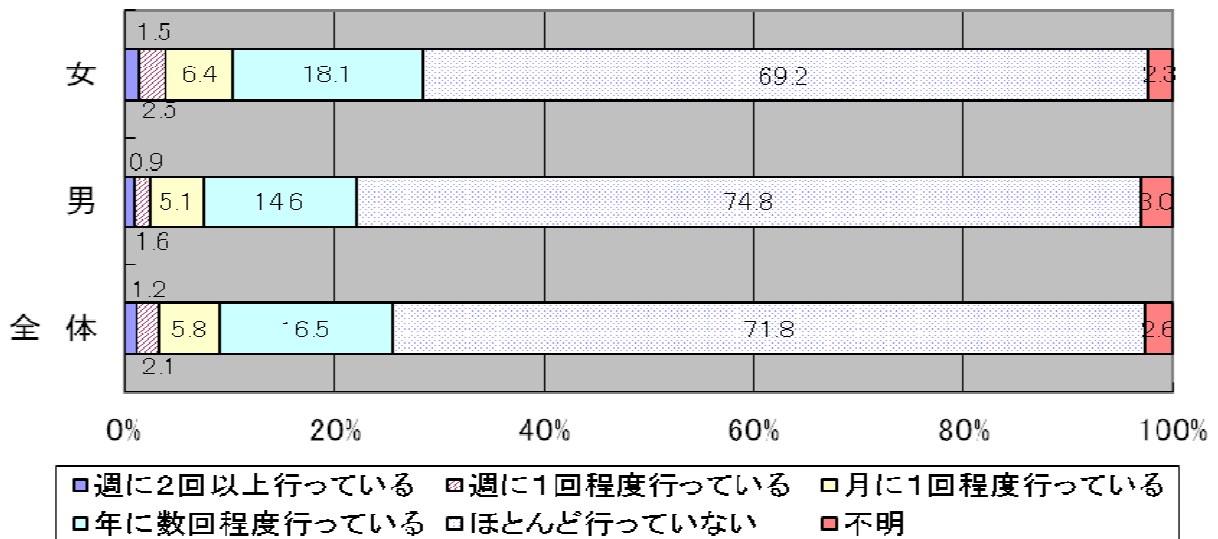


問7-2 日頃から学習のテーマを持って、学習活動にどの程度取り組んでいますか？

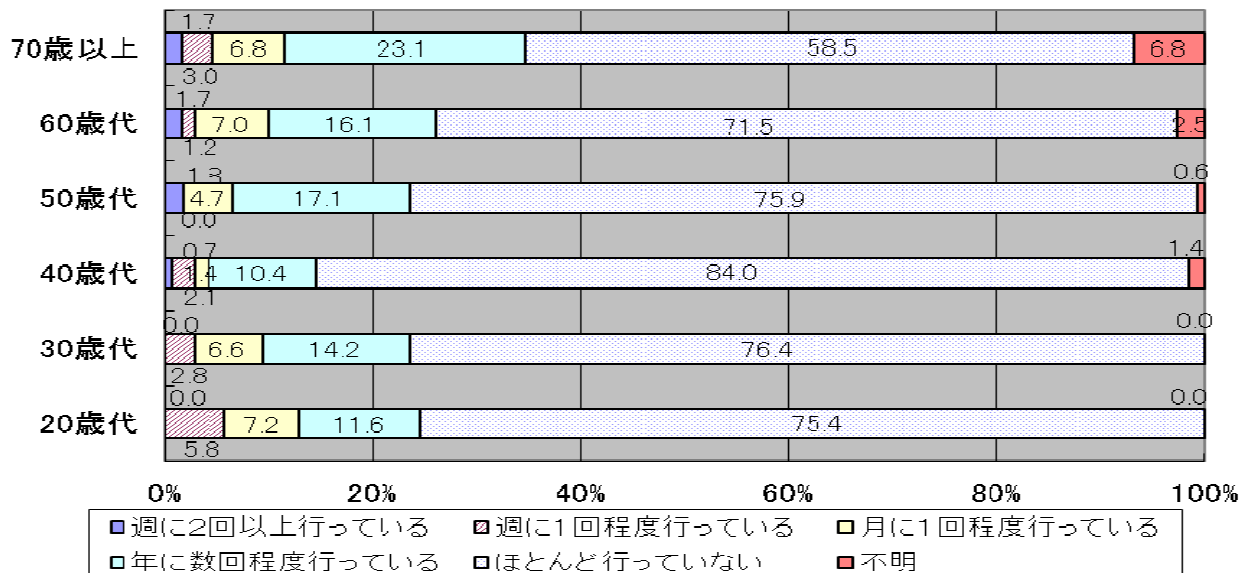
対象施策：学習交流活動の推進
 成果指標：学習活動を行っている市民の割合
 調査結果：25.6%（年に数回程度以上行っている市民の割合）[26.3%]
 【7-1の一部含むと38.1% [35.5%】】

- 全体として、テーマを持って学習活動に取り組んでいる割合は25.6% [26.3%]（女性：28.5% [24.5%]、男性：22.2% [28.4%]）で、ほぼ市民の4人に1人である。
- 「ほとんど行っていない」割合を年代別で見ると、70歳以上(58.5%)を除いて全ての年代で70%以上となっており、特に40歳代が84.0%と非常に高い。
- ここで「ほとんど行っていない」または「不明」と答えた719人 [750人]のうち90人 [94人]、12.5% [9.2%]は、問7-1で文化芸術活動を「年に数回程度行っている」以上の回答をしており、広い意味で学習活動に関わっていると見られる。
 そこで、成果指標に関わる調査結果としては、25.6%+12.5%=38.1% [26.3%+9.2%=35.5%]と捉えてみた。

テーマを持った学習活動の頻度(男女別)



テーマを持った学習活動の頻度(年代別)

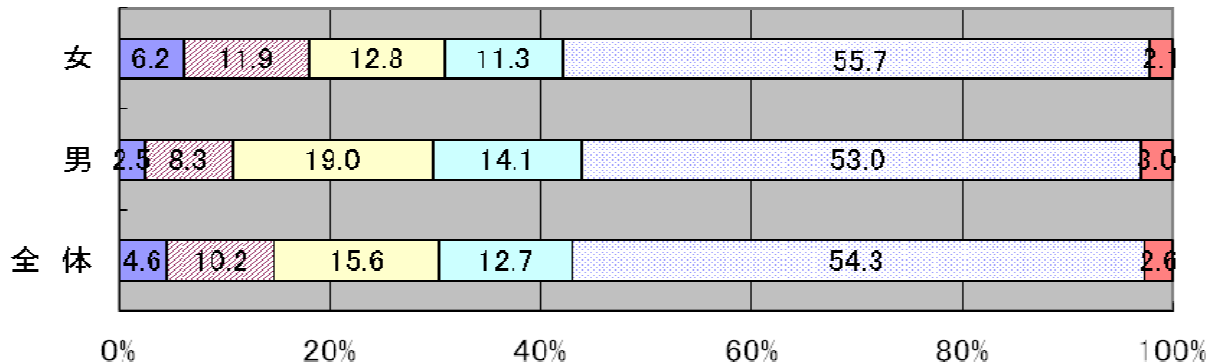


問7-3 仕事以外でグループに加入し、活動する機会がどの程度ありますか？

対象施策：学習交流活動の推進
 成果指標：家族や職場以外で交流がある市民の割合
 調査結果：43.1%（年に数回程度以上行っている市民の割合） [42.5%]

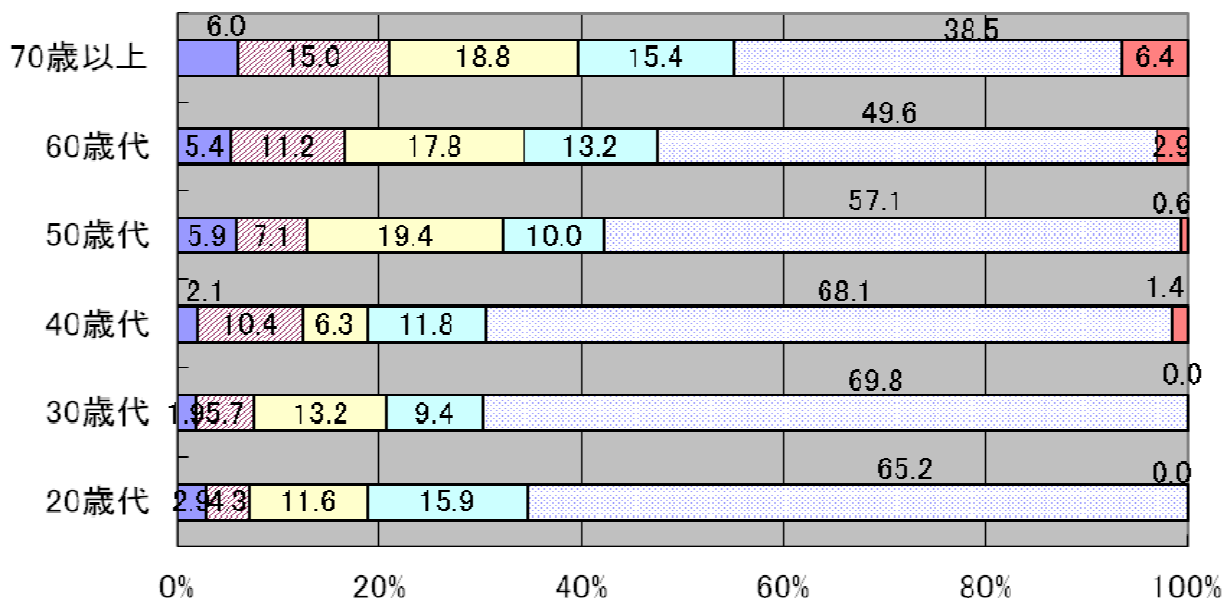
- 趣味のサークル活動を含めて質問したところ、年に数回以上活動をしている人の割合は全体で43.1% [42.5%]（女性：42.2% [41.8%]、男性：43.9% [43.6%]）だった。
- 活動をしている割合を年代別で見ると、年齢の上昇に比例して率も上昇していく。（最高値：70歳以上55.2%、最低値：30歳代の30.2%）

仕事以外でグループ活動する頻度（男女別）



週に2回以上行っている
 週に1回程度行っている
 月に1回程度行っている
 年に数回程度行っている
 ほとんど行っていない
 不明

仕事以外でグループ活動する頻度（年代別）



週に2回以上行っている
 週に1回程度行っている
 月に1回程度行っている
 年に数回程度行っている
 ほとんど行っていない
 不明

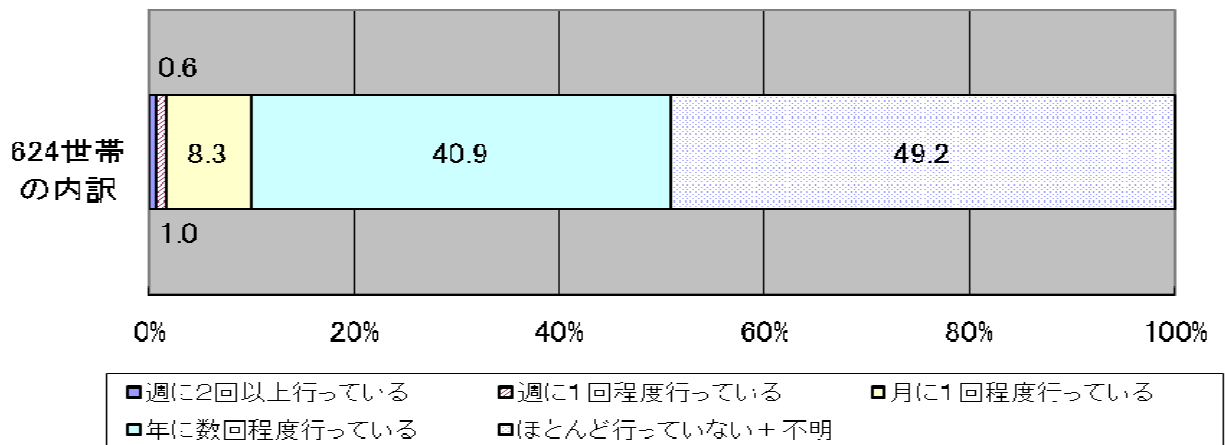
問7-4 地域の行事や活動に親子（小中学生まで）でどの程度参加していますか？

(対象：子どもを持つ624世帯)

対象施策：家庭教育の充実
成果指標：地域行事・地域活動に親子で参加している割合
調査結果：50.8%（「年に数回程度以上参加している」割合）[50.7%]

- 問6から、今回の調査回答者のうち子どもを持つ世帯数は624[649]（二世帯世帯：435、三世帯世帯：189）となっている。そこで、この世帯数を対象にして地域行事や地域活動に親子で参加している割合を求めることにした。
- 回答状況を見ると、「週に2回以上行っている」：4人、「週に1回以上行っている」：6人「月に1回程度行っている」：52人、「年に数回程度行っている」：255人となっており、「年に数回程度以上行っている」と答えた人は合計317人[329人]で50.8% [50.7%] である。

地域行事等に親子で参加する頻度

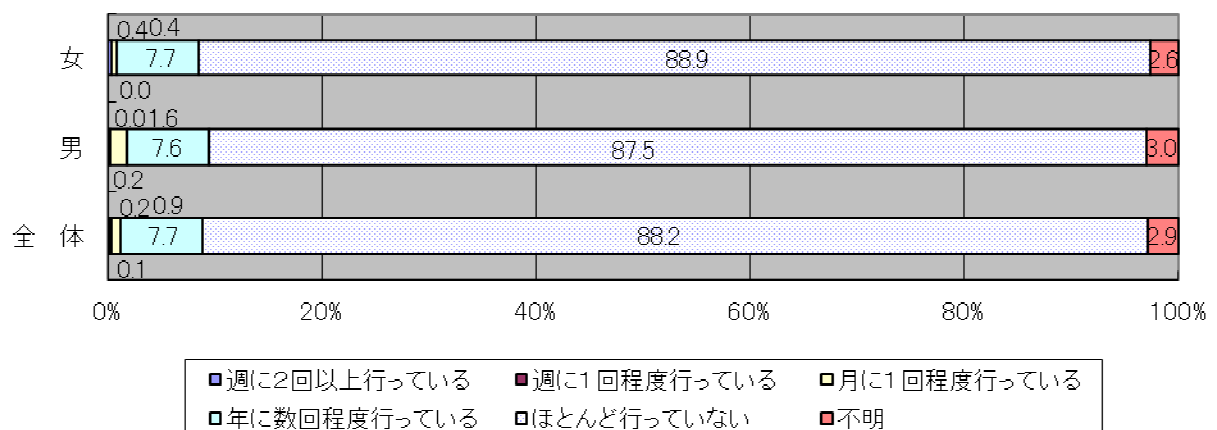


問7-5 三遠地域・中京圏の住民やグループとの交流活動をどの程度行っていますか？

対象施策：三遠南信・中京圏の連携促進
成果指標：都市間交流に参加している市民の割合
調査結果：8.9%（年に数回程度以上行っている市民の割合）[10.5%]

- 将来的に飯田市を含めた南信州地域とさらに深い関わりを持つと思われる地域との交流の状況を質問したが、現段階では交流している人の割合は8.9%[10.5%]（女性：8.5%[8.1%]、男性：9.4%[13.3%]）という数値を示した。
- 年代別に交流割合を見ると、20歳代と30歳代は10%を越えるが（最高値：20歳代15.8%）、その他の年代は10%を下回り、特に40歳代は4.2%と極めて低い。

三遠地域・中京圏との交流活動の頻度

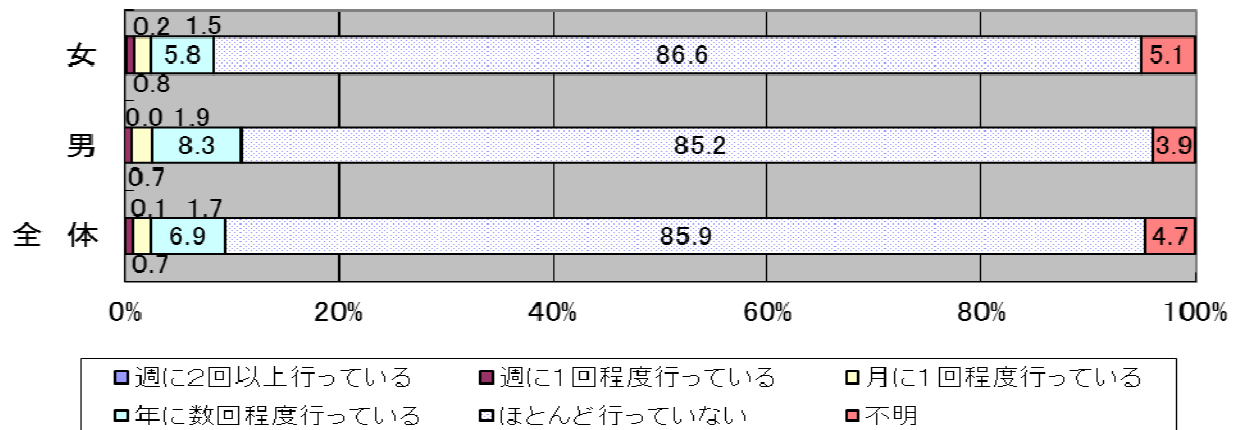


問7-6 三遠南信地域・中京圏を除く住民やグループと交流活動をどの程度行っていますか？

対象施策：都市間交流の推進
 成果指標：都市間交流に参加している市民の割合
 調査結果：9.4%（年に数回程度以上行っている市民の割合） [13.2%]

- 三遠南信地域・中京圏を除いた地域について見ると、交流している人の割合は、9.4% [13.2%]（女性：8.3% [12.2%]、男性：10.9% [14.5%]）となっている。
- 年代別に交流割合を見ると、年代によりバラツキがあり、特段、年齢層による傾向は見られない（最高値：20歳代 14.5%、最低値：40歳代 6.3%）

三遠南信・中京圏以外との交流活動の頻度

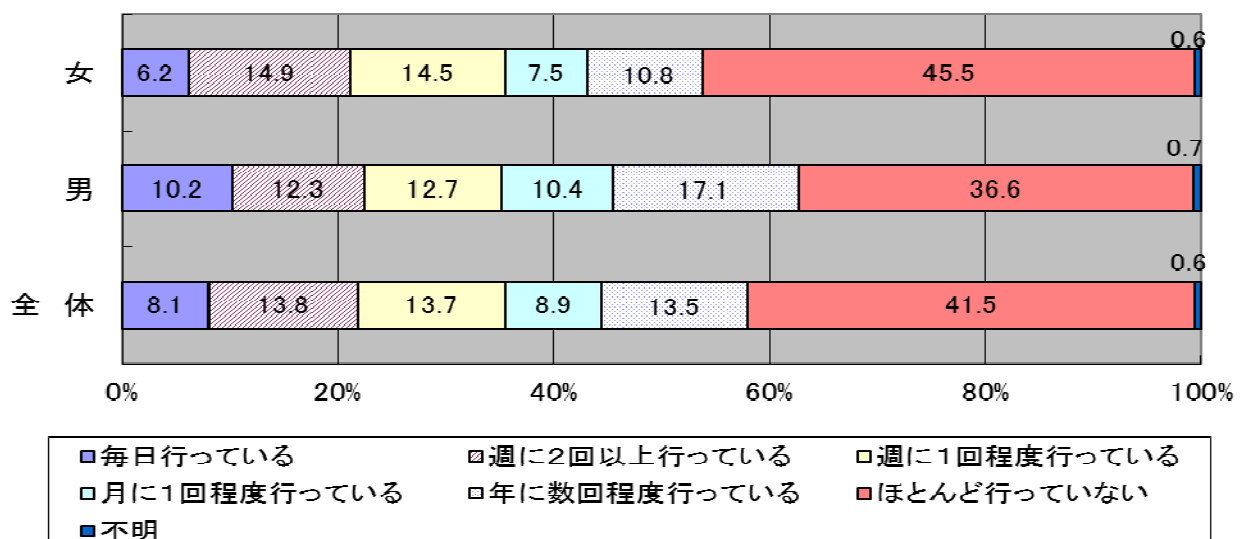


問8 ウォーキングやスポーツをどの程度行っていますか？

対象施策：スポーツの振興
 成果指標：ウォーキングやスポーツを行っている市民の割合
 調査結果：35.6%（週に1回以上行っている市民の割合） [38.8%]

- 国では「週に1回以上のスポーツ実施率 50%」を目標に掲げている。飯田市で見ると、ウォーキングやスポーツを週1回以上行う割合は、35.6% [38.8%]（女性：35.6% [38.1%]、男性：35.2% [39.8%]）となっている。
- 年代別に「週に1回以上行っている割合」を見ると、国の目標を達成しているのは70歳以上 51.3%だけとなっており、特に30歳代は12.2%と極めて低い。

ウォーキング・スポーツをする頻度

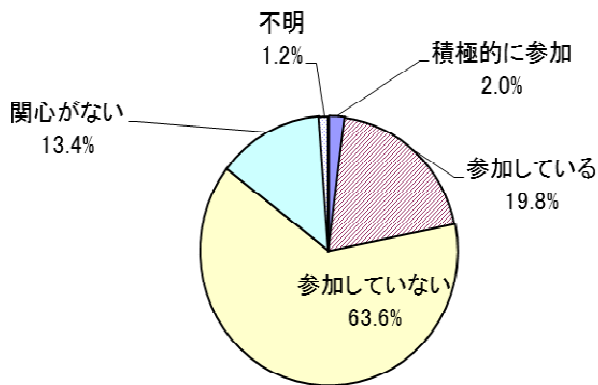


問9 環境に関する学習会や環境に関する知識を高めるような行事（講演会・研修会・イベントなどに関わったり、参加したりしていますか？

対象施策：自然とのふれあいと環境学習の推進
 成果指標：環境学習会に参加したことのある市民の割合
 調査結果：21.8%（「積極的に参加」＋「参加」の割合）[20.6%]

- 「積極的に参加している」と「参加している」を合わせた割合は、21.8% [20.6%]（男性：26.1% [24%]、女性：18.1% [17.6%]）となっている。
- 参加している状況を年代別に見ると、年齢に比例して上昇していく傾向にある。（最低値：20歳代5.7%、最高値：70歳以上30.7%）

環境に関する学習会等へ参加する頻度

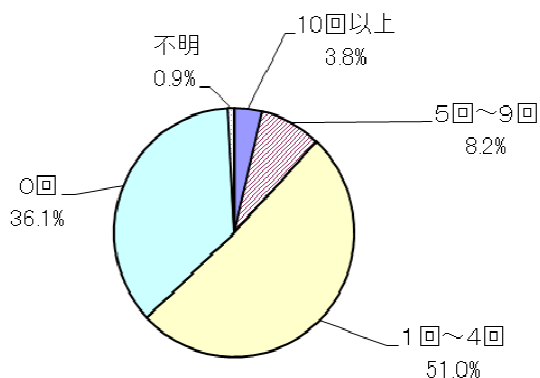


問10 昨年1年間に、市内外を問わず文化や芸術の鑑賞をどの位行いましたか？

調査結果：63.0%（1回以上鑑賞を行った人の割合）[54.3%]

- 1回以上鑑賞を行った人の割合は63.0% [54.3%]（女性：68.7% [55.2%]、男性：55.8% [53.6%]）となっている。

昨年1年間の文化芸術鑑賞の頻度



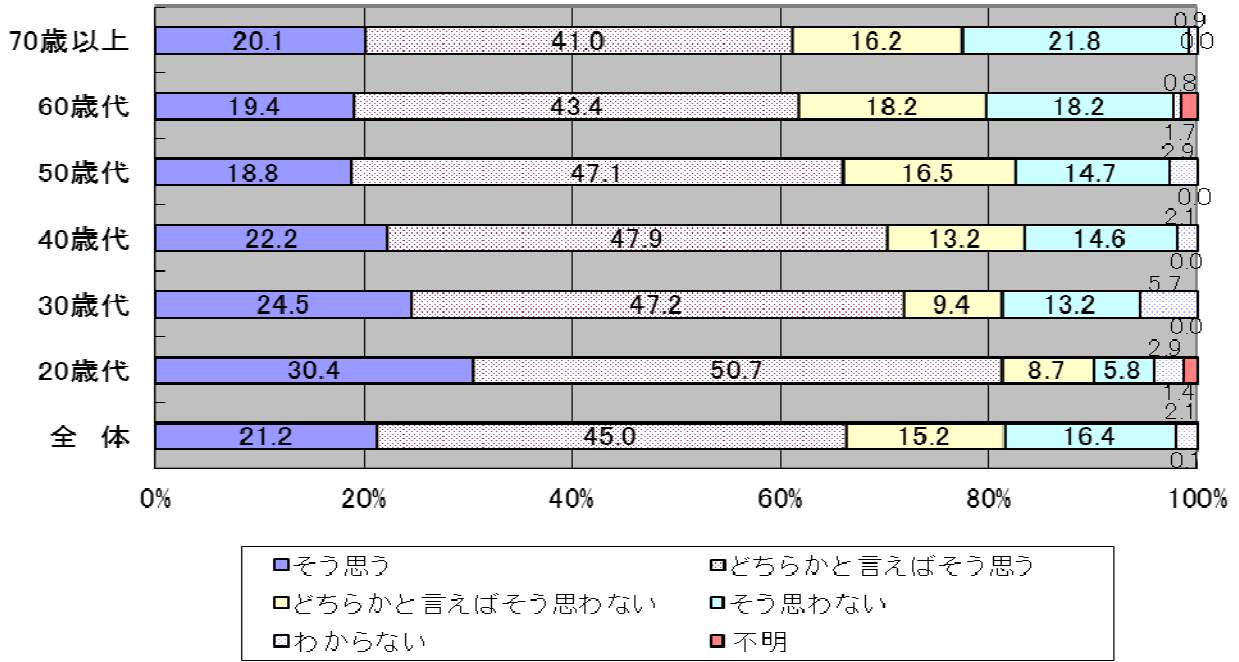
問11 心身ともに健康であると思いますか？

対象施策：心と体の健康づくり
 成果指標：心身ともに健康であると感じている市民の割合
 調査結果：66.2%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[66.0%]

- 健康状態について質問したところ、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計が66.2% [66.0%]（女性：67.6% [67.5%]、男性：64.6% [64.3%]）であった。一方、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の合計が31.6% [30.6%]もあり、全体の3割程度は健康と感じていないことを示している。
- 健康と感じている人を年代別に見ると、年齢と比例して上昇し、40歳代をピークに下降に転じる傾向にある（最高値：20歳代81.1%、最低値：70歳以上61.1%）。

※表は次頁

心身ともに健康だと思う

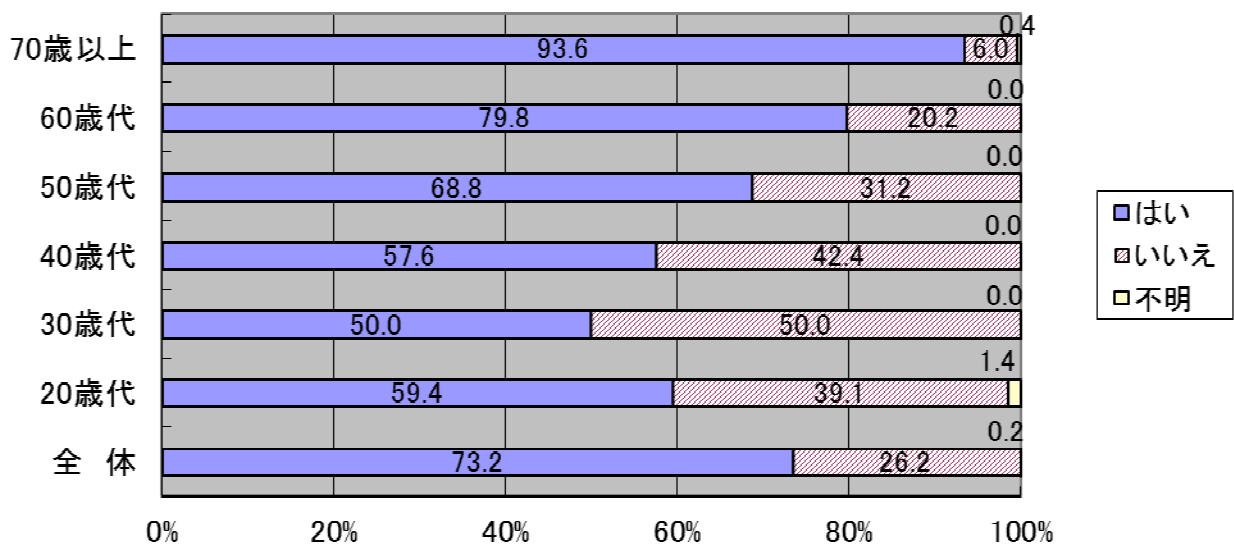


問12 いつでも安心して医療が受けられる、かかりつけ医を持っていますか？

対象施策：医療の充実
 成果指標：かかりつけ医を持つ市民の割合
 調査結果：73.2%（「はい」と答えた市民の割合）[69.7%]

- いつでも安心して医療が受けられる、かかりつけ医を持っているかとの質問に対して、全体で「はい」：73.2% [69.7%]（女性：74.2% [70.3%]、男性：72.2% [69.4%]）、「いいえ」：26.6% [28.5%]（女性：25.7% [29.7%]、男性：27.5% [29.3%]）であった。
- かかりつけ医を持っている人を年代別に見ると、年齢に比例して上昇していく。（最低値：30歳代 50.00%、最高値：70歳以上 93.6%）。

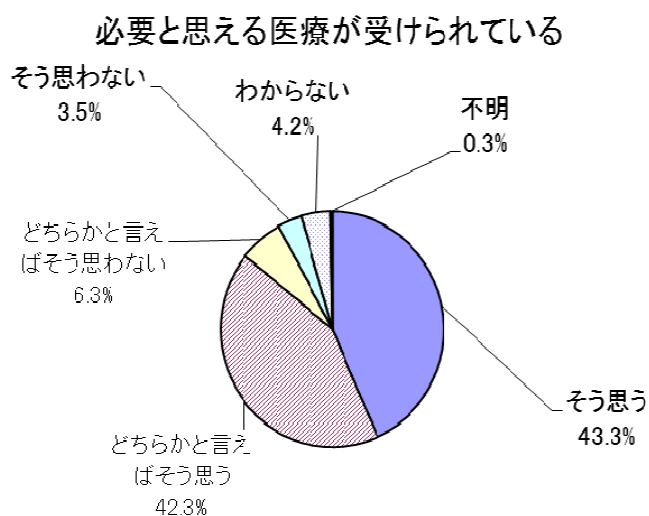
かかりつけ医を持っている



問13 必要と思える医療が受けられていると思いますか？

対象施策：医療の充実
 成果指標：必要な医療が受けられていると感じる市民の割合
 調査結果：85.6%（「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」の割合）[82.3%]

- 「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせて85.6% [82.3%]（女性：83.5% [83.1%]、男性：88.0% [81.3%]）となり、8割以上が必要と思える医療が受けられていると感じている。
- 年代別で見ると、どの年代も80%以上が「受けられている」と感じており、なかでも70歳以上は91.1%と高い水準にある。

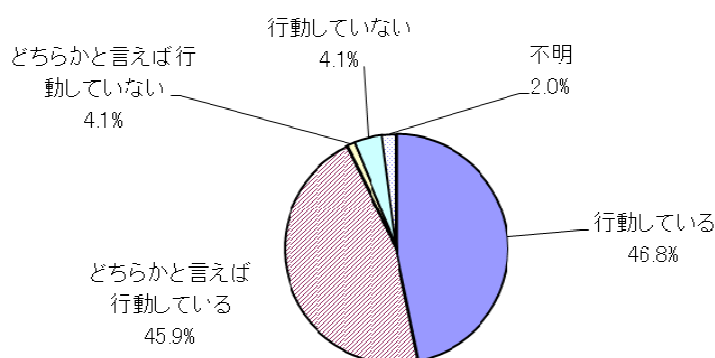


問14 家庭や職場、地域の中で、性別・国籍にかかわらず相手の人権を尊重して行動していますか？

対象施策：共に歩む社会づくりの推進
 成果指標①：日常生活の中で人権を尊重して行動している人の割合
 調査結果：46.8%（「行動している」と答えた割合）[41.7%]
 成果指標②：日常生活の中で人権尊重意識を持っている人の割合
 調査結果：92.7%（「行動している」+「どちらかと言えば行動している」の割合）[92.4%]

- 「行動している」：46.8% [41.7%]と「どちらかと言えば行動している」：45.9% [50.7%]を合わせて92.7% [92.4%]（女性：91.9% [93.3%]、男性：93.7% [91.4%]）という9割を超える非常に高い割合で、人権尊重意識を持って行動しているとの回答があった。

性別・国籍にかかわらず人権を尊重して行動している



問15 地震・火災・豪雨等の災害に対して備えをしていますか？

対象施策：災害対策の推進
成果指標：市民が災害に備えている割合
調査結果：44.2%（下記①～③の3つの質問で「はい」と答えた割合の平均値）[44.8%] 51.4%（下記①～④の4つの質問で「はい」と答えた割合の平均値）[51.4%]

- ここでは、① 災害時の避難場所や災害情報を得る方法を知っている
 ② 7日以上の食料や飲料水を準備している
 ③ 家具の転倒防止策をしている
 ④ 住宅用火災警報器を設置している

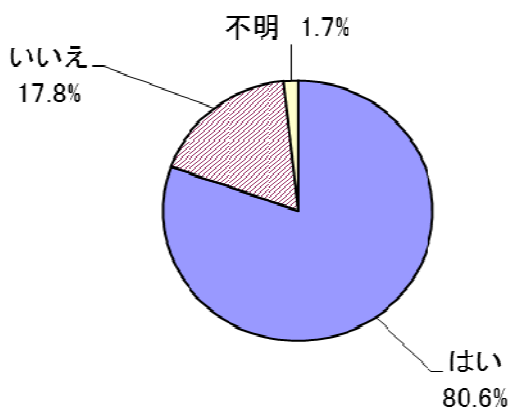
の4項目を調査した。①～③の平均は 44.2% [44.8%] で、①～④の平均は 51.4% [51.4%] であった。

問15-① 災害時に避難場所や災害情報を得る方法を知っている

調査結果：80.6%（「はい」と答えた割合）[78.5%]

- 災害時に避難場所や災害情報を得る方法を知っている人は、80.6% [78.5%]（女性：77.9% [78.3%]、男性：83.6% [78.5%]）であった。
- 知っている人の割合を年代別で見ると、60歳代が88.4%と最も高く、逆に最も低かったのは20歳代で59.4%と6割程度にとどまっている。

①災害時の避難場所等を知っている

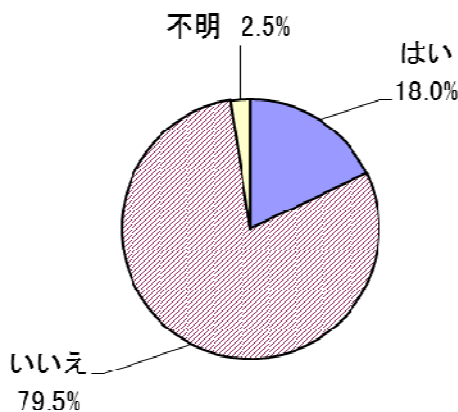


問15-② 7日以上の食料や飲料水を準備している

調査結果：18.0%（「はい」と答えた割合）[19.0%]

- 食料や飲料水を用意している人の割合は、18.0% [19.0%]（女性 15.7% [20.0%]、男性 20.8% [17.4%]）である。
- 準備している人の割合を年代別に見ると、概ね若くなるほど低い傾向にあり、60歳代以上は20%以上を示しているのに対して、30歳代は10%を切っており、50歳代を境に大きな隔りがある（最高値：70歳以上 29.1%、最低値：20歳代 5.8%）。

②7日以上の食料・飲料水を準備している

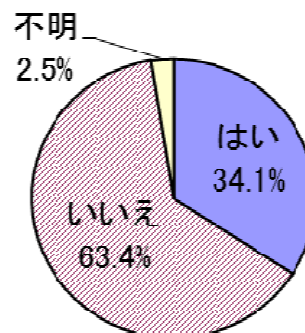


問15-③ 家具の転倒防止策をしている

調査結果：34.1%（「はい」と答えた割合）[36.9%]

- 家具の転倒防止に備えている人の割合は、34.1%[36.9%]（女性：31.1%[37.1%]、男性：38.0%[36.6%]）に留まっている。
- 備えている人の割合を年代別で見ると、50歳以上が40%前後（最高値：70歳代45.3%）であるのに対し20～40歳代では30%以下にとどまっている。

③家具の転倒防止策をしている

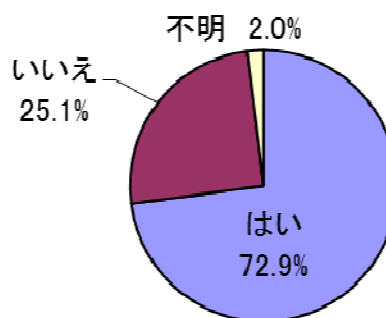


問15-④ 住宅用火災警報器を設置している

調査結果：72.9%（「はい」と答えた割合）[71.1%]

- 住宅用火災警報器を設置している人の割合は、72.9%[71.1%]（女性：74.2%[72.3%]、男性：71.3%[69.5%]）であった。
- 年代別にみても、どの年代でも7割前後が「備えている」としており、一定の普及がみられる。特に30歳代は78.3%と高い水準となっている。

④住宅用火災警報器を備えている

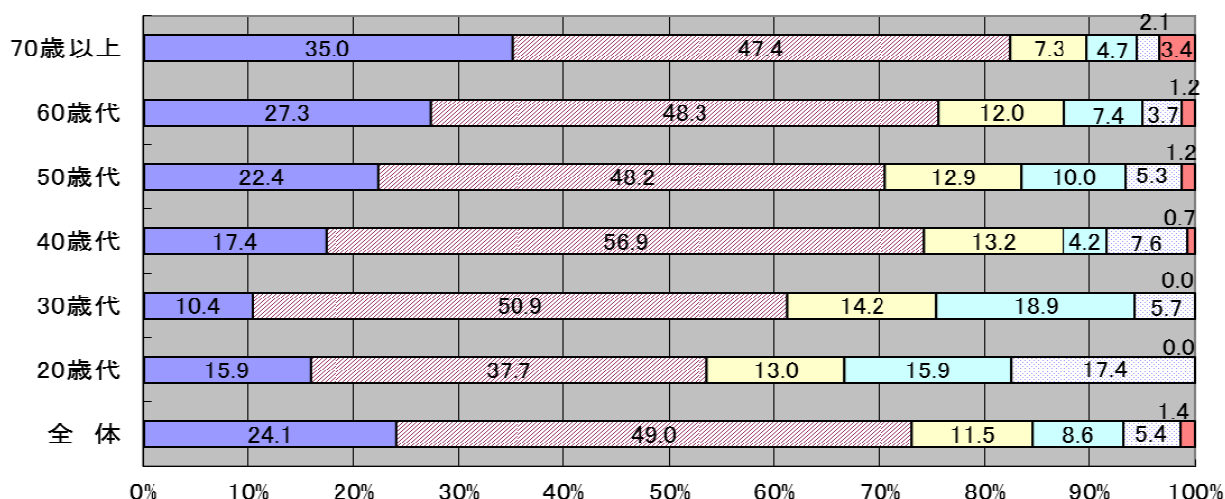


問16 生活している中で、隣近所で助け合い、支え合うことができていると思いますか？

対象施策：共に支えあう地域福祉の推進
 成果指標：近隣で支えあいができている市民の割合
 調査結果：73.1%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[76.7%]

- 全体では、「そう思う」：24.1% [26.6%]、「どちらかと言えばそう思う」：49.0% [50.1%] で、隣近所で助け合い支え合うことができていると感じている人の割合は73.1% [76.2%]（女性：72.6% [75.6%]、男性：73.6% [78.3%]）となっている。一方で、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は20.1% [17.7%] で、2割弱の人が「できていない」と感じている。
- できていると感じている人の割合を年代別で見ると、概ね年齢と共に上昇している（最高値：70歳代82.4%、最低値：20歳代53.6%）。
- 地区別に見ると、龍江：96.0%、上久堅：92.3%、下久堅：90.0%と高く、逆に低い地区は座光寺、丸山、三穂地となっている。

隣り近所で助け合い、支えあうことができている



□そう思う □どちらかと言えばそう思う □どちらかと言えばそう思わない □そう思わない □わからない □不明

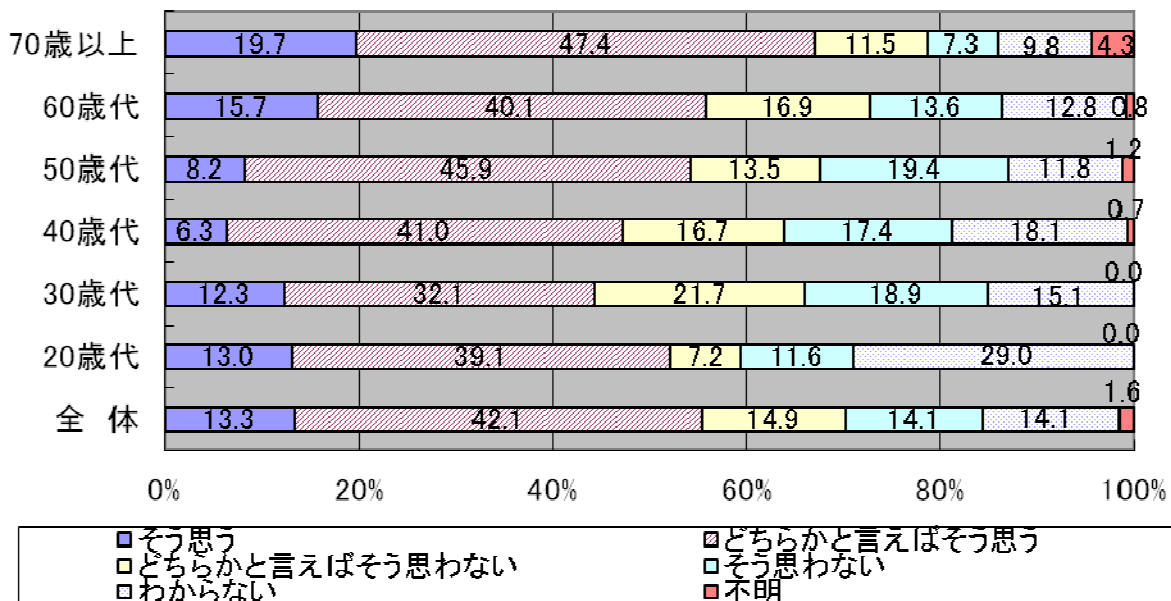
問17 福祉や介護制度により、現在、安心して暮らしていると思いますか？

対象施策：高齢者福祉の推進
 成果指標：安心して暮らせている高齢者の割合（65歳以上に限定）
 調査結果：62.9%（65歳以上で「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）
 [59.6%]

- 全体では、「そう思う」：13.3% [10.3%]、「どちらかと言えばそう思う」：42.1% [42.2%] で、安心して暮らせていると感じている人の割合は55.4% [52.5%]（女性：55.3% [53.8%]、男性：55.1% [50.5%]）と半数に留まる一方で、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は29.0% [32.3%] と3割に達している。
- 年代別では、概ね年代が若くなるほど低下する傾向にあり、60歳以上が平均値より高い値を示した（最高値：70歳代67.1%、最低値：30歳代44.4%）。

- 成果指標としては、安心して暮らせていると感じている高齢者（65歳以上）の割合を見る。今回の調査では62.9% [59.6%]、383人 [389人] 中241人 [232人] と、6割以上が安心して暮らせていると感じている。

福祉や介護制度により安心して暮らしている

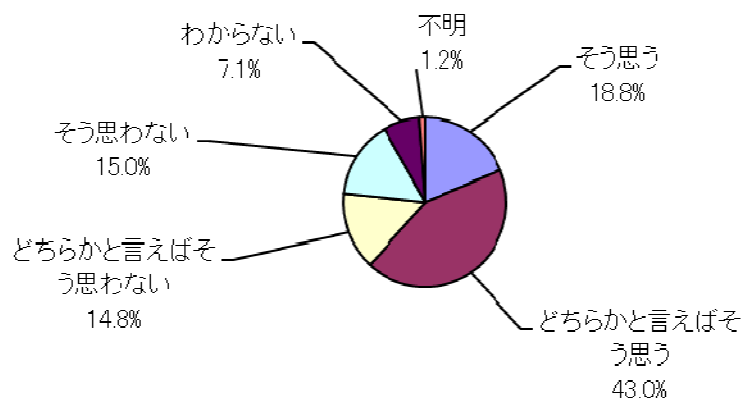


問18 日頃から仕事や趣味、社会活動などで生きがいを感じて生活していると思いますか？

対象施策：高齢者福祉の推進
 成果指標：いきいき暮らせている高齢者の割合（65歳以上に限定）
 調査結果：68.1%（65歳以上で「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）
 [72.0%]

- 生きがいを感じて生活している人の割合は、全体で「そう思う」：18.8% [21.0%]、「どちらかと言えばそう思う」：43.0% [46.8%] で、61.8% [72.0%]（女性：60.6% [67.9%]、男性：63.2% [68.2%]）となっており、生きがいを感じていない人の29.8% [25.8%]（「そう思わない」：15.0% [10.8%]、「どちらかと言えばそう思わない」：14.8% [15.0%]）を大きく上回っている。

仕事や趣味、社会活動などで生きがいを感じて生活している



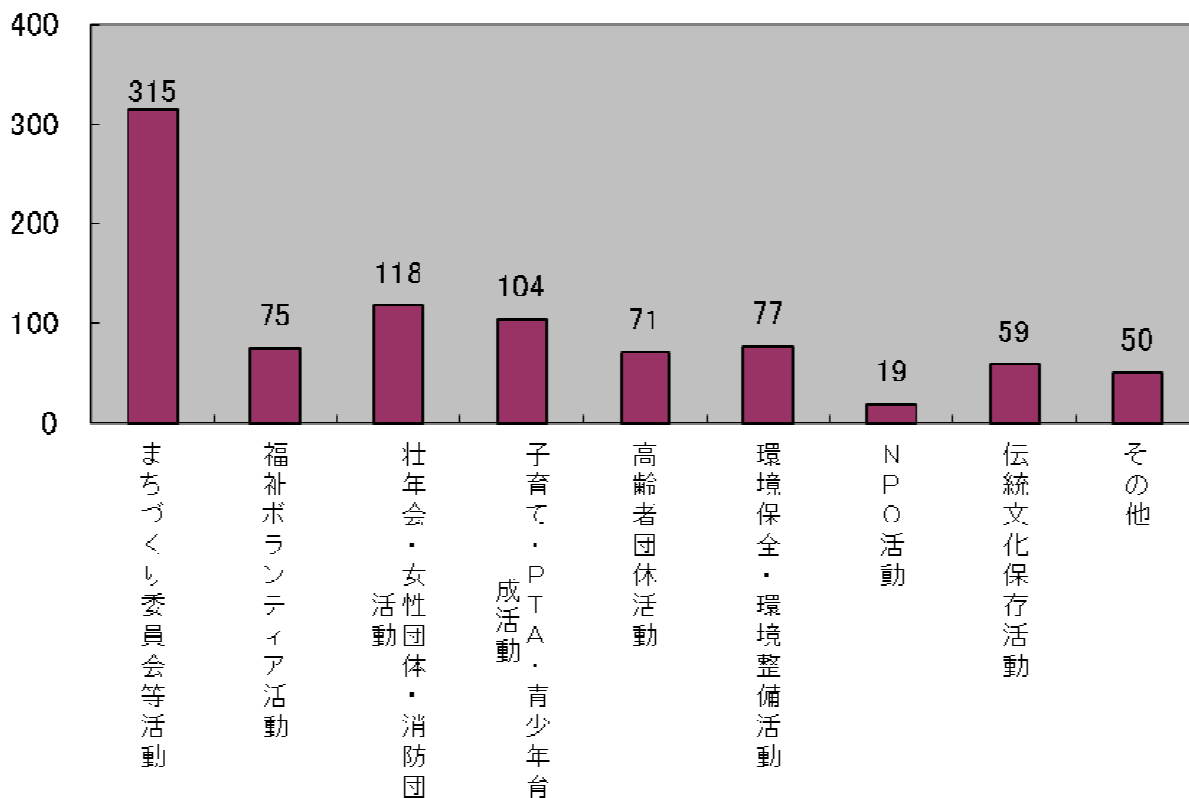
- 年代別では70歳代が72.6%と最も高く、逆に30歳代では45.3%と最も低い。その他の年代では、概ね60%台で推移している。（最高：70歳以上72.6%、最低：30歳代45.3%）
- 成果指標としては、いきいき暮らせていると感じている高齢者（65歳以上）の割合を見る。今回の調査では68.1% [72.0%]、383人 [365人] 中261人 [280人] である。

問19 次のような社会活動に参加していますか？

対象施策：学習交流活動の推進 成果指標：社会活動に参画する市民の割合 調査結果：60.0%（何らかの社会活動に参加している市民の割合）[59.9%]
対象施策：自立に向けた住民組織力の向上 成果指標：地域活動に参加している住民の割合 調査結果：60.0%（何らかの社会活動に参加している市民の割合）[59.9%]

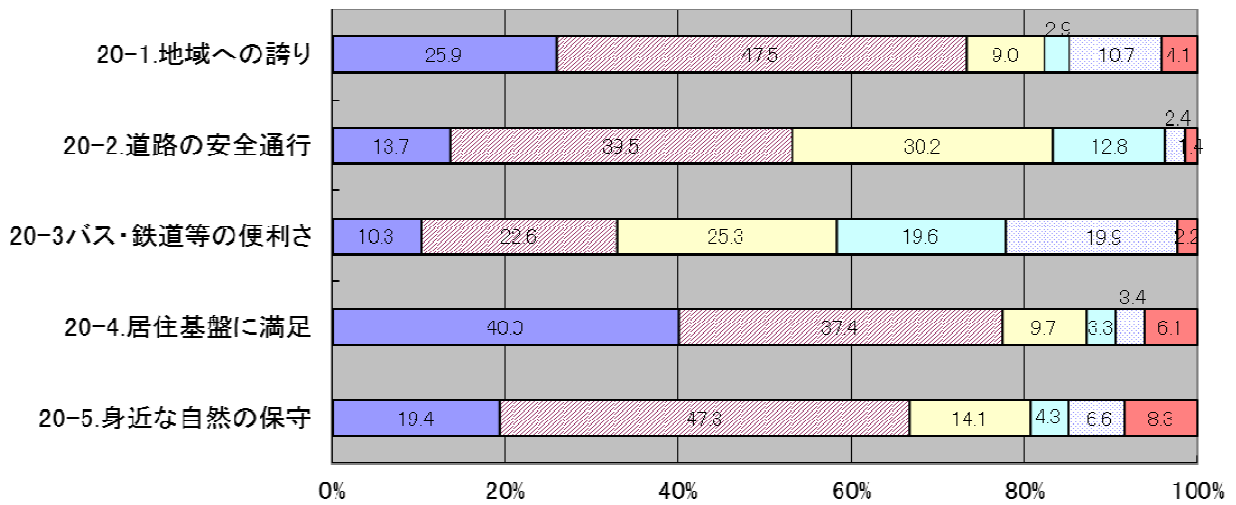
- どのような社会活動に参加しているか、関わっているもの全てを回答してもらう設問。全回答者 967 人 [1,017 人] のうち 580 人 [609 人]（率にして 60.0% [59.9%]）から具体的な回答があった。「まちづくり委員会等活動」：315 人 [320 人]、「壮年会・女性団体・消防団活動」：118 人 [107 人]、「子育て・青少年育成活動」：104 人 [106 人] への参加割合が高くなっている。
- 参加割合が高い主な社会活動を男女別で見ると、男性は「まちづくり委員会等活動」：39.6% [40.4%]、「壮年会・女性団体・消防団活動」：15.0% [14.6%]、「環境保全・環境整備活動」：13.4% [13.1%] 等。
女性では「まちづくり委員会等活動」：27.0% [23.9%]、「子育て・PTA・青少年育成活動」：13.2% [14.3%]、「壮年会・女性団体・消防団活動」：9.8% [7.2%]。
- 「自治会活動」や「公民館活動」である「まちづくり委員会等活動」に関わっている人を年代別に見ると、40歳代以上は30%を超えているが、20～30歳代は低い数値を示している（最高値：60歳代41.7%、最低値：30歳代8.5%）。

参加している社会活動の内容



< 飯田市に対する印象 >

飯田市に対する印象



□そう思う □どちらかと言えばそう思う □どちらかと言えばそう思わない □全くそう思わない □わからない □不明

問20-1 地域（飯田の自然・歴史・文化・風土など）を誇りに思っている

対象施策：ふるさと意識の醸成

成果指標：ふるさとを誇りに思っている市民の割合

調査結果：73.4%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[74.3%]

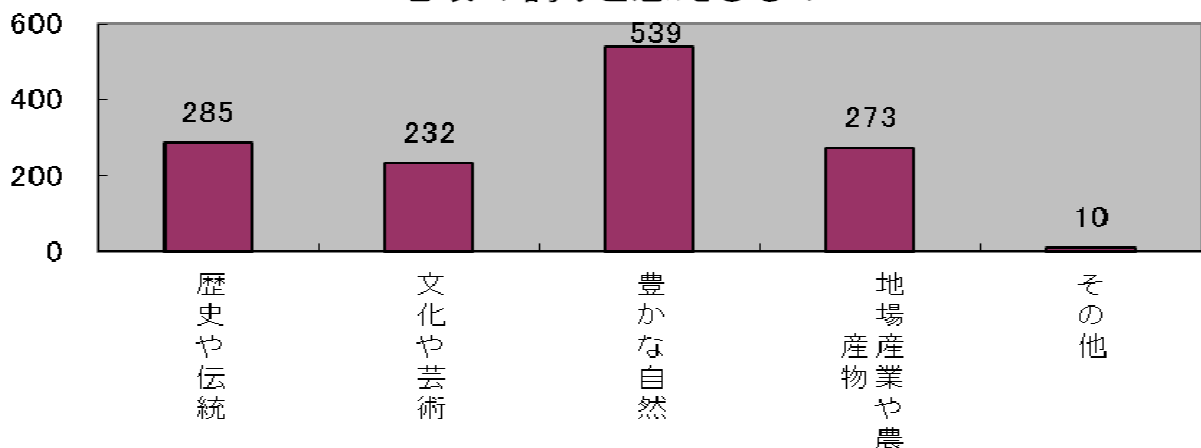
○「そう思う」：25.9% [24.6%]、「どちらかと言えばそう思う」：47.5% [49.7%] で、合わせて73.4% [74.3%]（女性：72.8% [74.3%]、男性：74.1% [74.0%]）は誇りに思っていることが伺われる。

○誇りに思っている人を年代別で見ると、20歳代が79.7%と最も高かった。

最低値は30歳代の63.2%

○地域の誇りと思えるものを尋ねた結果（複数回答可）は、「豊かな自然」：539人 [671人]（76.0% [66.0%]）でもっとも多く、以下「歴史や伝統」：285人 [303人]（40.2% [29.8%]）、「地場産業や農産物」：273人 [356人]（38.5% [35.0%]）、「文化や芸術」：232人 [273人]（32.7% [26.8%]）という結果だった。

地域の誇りと思えるもの



問20-2 普段使っている道路（歩道を含む）は、安全に通行できると思う

対象施策：交通機関と道路の充実（道路）

成果指標：市内の移動に不便を感じる市民の割合

調査結果：43.0%（「どちらかと言えばそう思わない」+「全くそう思わない」の割合）[46.5%]

- 全体では、「そう思う」：13.7% [12.6%]、「どちらかと言えばそう思う」：39.5% [39.0%] で、安全に通行できると考えている人の割合は53.2% [51.6%] に留まっている。一方、「どちらかと言えばそう思わない」：30.2% [33.3%]、「全くそう思わない」：12.8% [13.2%] で、合わせると43.0% [46.5%] の人が安全に通行できないと感じていることがうかがえる。
- 居住地区別の状況を見ると、次のとおりである。
「安全に通行できる」と感じている人の割合が高い地区は東野で80.6%、以下、②橋北：72.4%、③山本：71.8%、④川路：68.0%、⑤丸山、南信濃：66.6%の順。逆に、「安全に通行できない」と感じている人の割合が最も高いのは上久堅で69.3%、以下、②三穂：61.1%、③竜丘：56.9%、④座光寺：52.5%、⑤龍江：52.0%という順になっている。

問20-3 市内のバスや鉄道、乗合タクシーは便利だと思う

対象施策：交通機関と道路の充実（交通機関）

成果指標：市内の移動に不便を感じる市民の割合

調査結果：44.9%（「どちらかと言えばそう思わない」+「全くそう思わない」の割合）[46.4%]

- 全体では、「そう思う」：10.3% [10.0%]、「どちらかと言えばそう思う」：22.6% [21.1%] で、便利だと思う人の割合は32.9% [31.1%]（女性：33.0% [32.8%]、男性：32.8% [32.8%]）で、「どちらかと言えばそう思わない」：25.3% [24.6%]、「全くそう思わない」：19.6% [21.8%] で、不便を感じる人の割合が44.9% [46.4%]（女性：44.3% [43.5%]、男性：46.1% [49.9%]）である。
- 年代別では、便利だと思っている割合は、70歳以上の43.6%で最も高く、年代が若くなるにつれ割合が下降し、20～40歳代では30%を割り込んでいる。特に40歳代で最低値の20.1%であった。

問20-4 住んでいる地域の居住基盤に満足している

対象施策：居住基盤の向上

成果指標：居住基盤の満足度

調査結果：77.4%（「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」の割合）[83.2%]

- 居住基盤とは、水道、下水道、電気、ガス、電話、TVなどを対象としている。
- 全体では、「そう思う」：40.0% [37.8%]、「どちらかと言えばそう思う」：37.4% [45.4%] で、満足している人の割合は77.4% [82.9%]（女性：76.1% [83.9%]、男性：79.1% [82.1%]）で、「どちらかと言えばそう思わない」：9.7% [8.8%] と「全くそう思わない」：3.3% [3.7%] を合わせた13.0% [12.5%]（女性：13.2%

- [12.3%]、男性：12.8%[13.1%])を大きく上回っている。
- 年代別で見ると、20歳代と60歳代が80%を超える高い満足度を示している。(最高値：20歳代85.5%、最低値：70歳代72.6%)。
- 満足できない居住基盤としてあげられたものは、多い順で次のとおり。
1位 下水道：18人、2位 水道：17人、3位 テレビ：10人、4位 ガス、電気：ともに7人

問20-5 身近な自然が守られていると思う

対象施策：身近な自然と生活環境の改善
 成果指標：身近な自然は守られていると感じる市民の割合
 調査結果：66.7%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[68.0%]

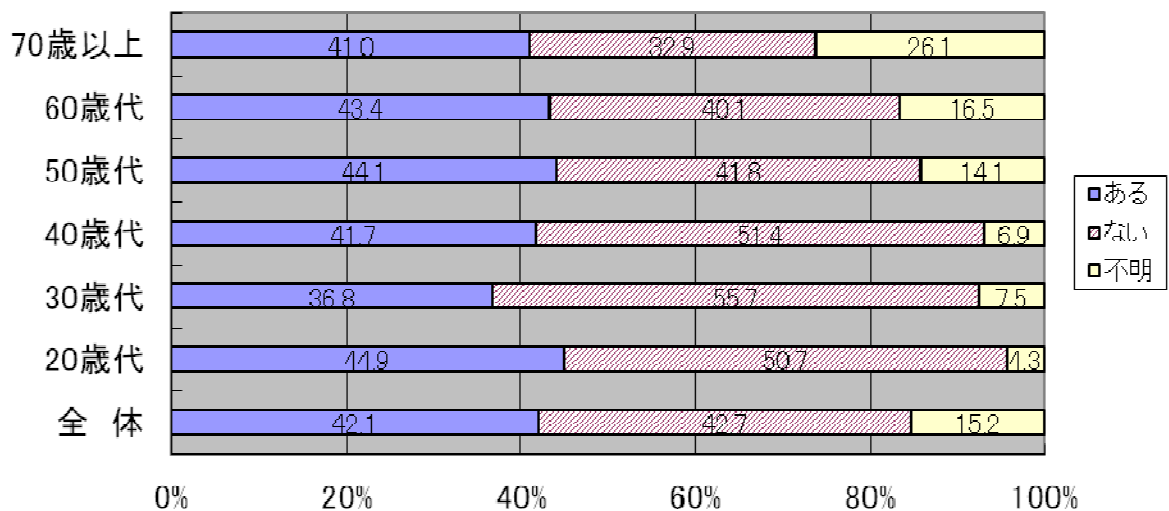
- 全体では、「そう思う」：19.4% [17.8%]、「どちらかと言えばそう思う」：47.3% [50.2%]で、合わせて66.7% [68.0%]（女性：66.7% [67.7%]、男性：66.2% [64.4%]）の人は身近な自然が守られていると思っている。一方で、「どちらかと言えばそう思わない」：14.1% [16.1%]と「全くそう思わない」：4.3% [5.2%]を合わせた18.4%[21.3%]の人は、自然が守られていないと受け止めている。
- 年代別で見ると、「守られている」と思う割合は、20～50歳代は7割前後であるのに対し、60歳以上は6割となり、概ね年代が若いほど高くなっている。

問21 市内の自然・歴史・文化（財）などの中で、市外の人に紹介したいもの（自慢したいもの、観光等で訪ねてもらいたいところ）がありますか？

調査結果：42.1%（「ある」と答えた市民の割合）[45.0%]

- 市外の人に紹介したいものが「ある」か「ない」かの二者択一で質問したところ、「ある」は42.1% [45.0%]（女性：42.8%[49.0%]、男性：41.2%[40.4%]）で、「ない」は42.7% [40.7%]（女性：39.4%[35.2%]、男性：46.5%[47.5%]）で、「ある」と「ない」がほぼ同数となっている。
- 年代別で見ると、20歳代が43.4%と最も高く、30歳代は36.8%と最も低い

市外へ紹介したい自然・歴史・文化等がある

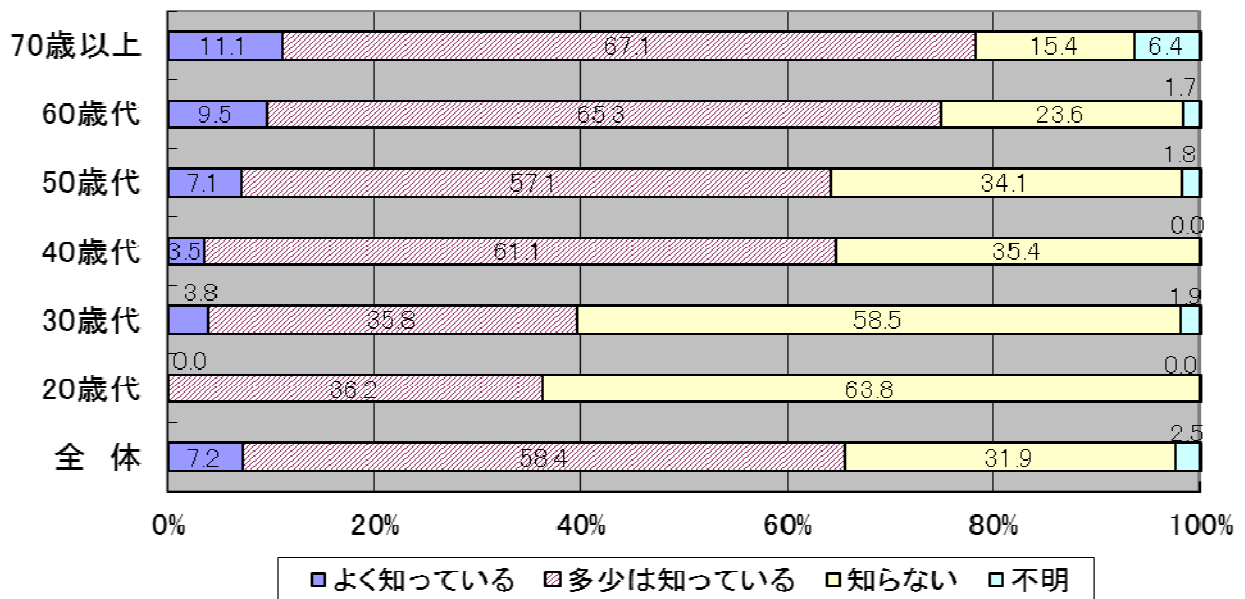


問22 住んでいる地域で行っている活動の内容や課題となっていることを知っていますか？

対象施策：地域情報・課題の相互理解の推進
 成果指標：地域の現状を共有できた市民の割合
 調査結果：65.6%（「よく知っている」＋「多少は知っている」の割合） [66.3%]

- 「よく知っている」は7.2% [8.8%] で、「多少は知っている」は58.4% [57.5%] で、合わせて65.6% [66.3%]（女性：64.7% [64.5%]、男性：66.6% [68.2%]）が「知っている」と回答しているが、「よく知っている」の割合は低い。「知らない」と答えた人は、31.9% [30.2%] である。
- 年代別に割合を見ると、年齢の上昇に比例して率が上昇していく（最高値：70歳代78.2%、最低値：20歳代36.2%）。

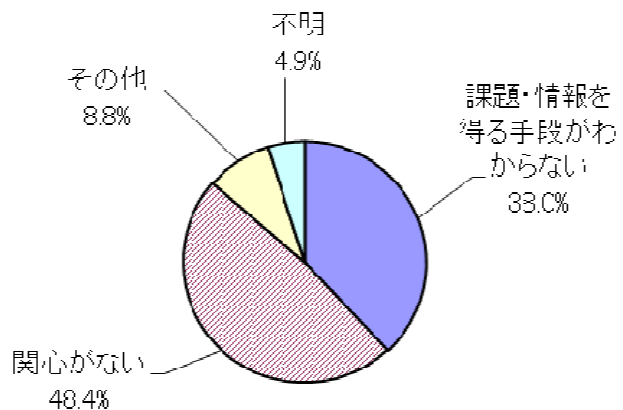
地域の活動や課題を知っている



問23 前問で「知らない」と答えた方に、知らない理由はなぜですか？

- 住んでいる地域で行なっている活動の内容や課題について、前問で「知らない」と答えた308人[307人]にその理由を質問したところ、全体では、「課題・情報を得る手段がわからない」:38.0%[38.44%]、「関心がない」:48.4% [49.8%] という結果だった。
- 知らない理由を年代別に見ると、30・40歳代は「課題・情報を得る手段がわからない」が上回り、20・50・60歳代は「関心がない」が上回った。

地域の活動や課題を「知らない理由」

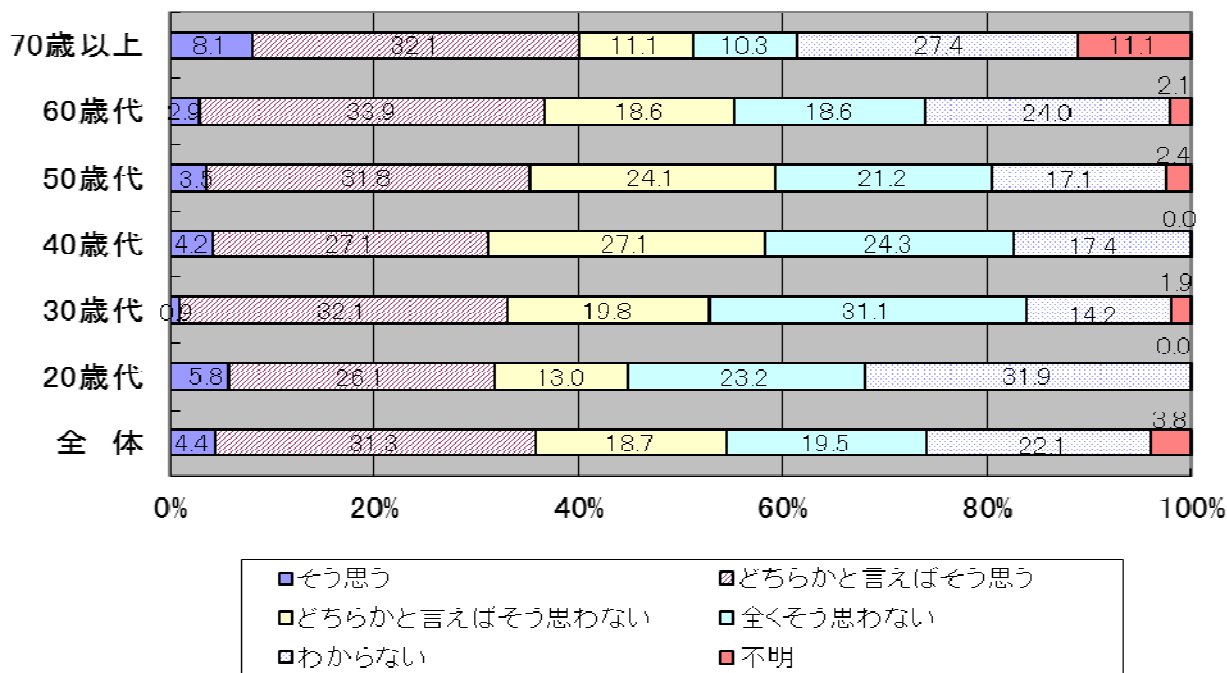


問24 飯田市が、子どもを産みやすい環境（医療体制や支援サービスが充実など）のまちだと思いますか？

対象施策：子どもを産み育てやすい環境の充実
 成果指標：子どもを産みやすい社会環境であると感じている対象者の割合
 調査結果：32.0%（20～49歳で「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」の割合）[39.5%]

- 全体を見ると、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は35.7% [40.9%]（女性：34.5% [39.1%]、男性：37.3% [43.2%]）。「どちらかと言えばそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた割合は38.2% [33.6%]であり、「思う」と「思わない」が拮抗している。
 このうち、20～49歳を「子どもを産む対象者」年齢層と見なして、その回答率を成果指標と捉えると、今回の調査では、該当者319人 [311人]。「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」が102人 [123人]で、割合は32.0% [39.5%]である。
- 産みやすいと思う人の割合を年代別で見ると、ややバラツキはあるものの年齢の上昇とともに率が上昇していく傾向にある（最高値：70歳代40.2%、最低値：40歳代31.3%）。

子どもを産みやすい環境のまちだと思う



< 現在、18歳未満の子どもを育てている方への質問 >

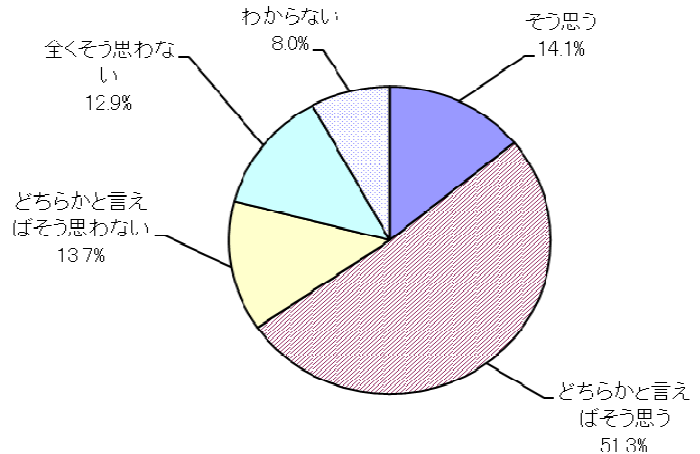
問25 飯田市が、子育てしやすい環境（育児や保育など）のまちだと思いますか？

(※ 限定質問のため、有効回答記入のあった263人を対象とする)

対象施策：子どもを産み育てやすい環境の充実
 成果指標：子どもを育てやすい社会環境であると感じている対象者の割合
 調査結果：65.4%（「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」対象者の割合）[61.4%]

- 「そう思う」：14.1% [12.4%]、「どちらかと言えばそう思う」：51.3% [49.0%] で、「子育てしやすい環境のまち」と思っている人の割合は 65.4% [61.4%]（女性：66.7% [64.4%]、男性 62.9% [59.4%]）となった。
- 該当者数にばらつきはあるが、年代別では、中高生を子育てしている40歳代が73.3%と最も高く、保育園、小学校低学年を子育てしている20.60歳代は50%台と低くなっている。

子育てしやすい環境のまちだと思う



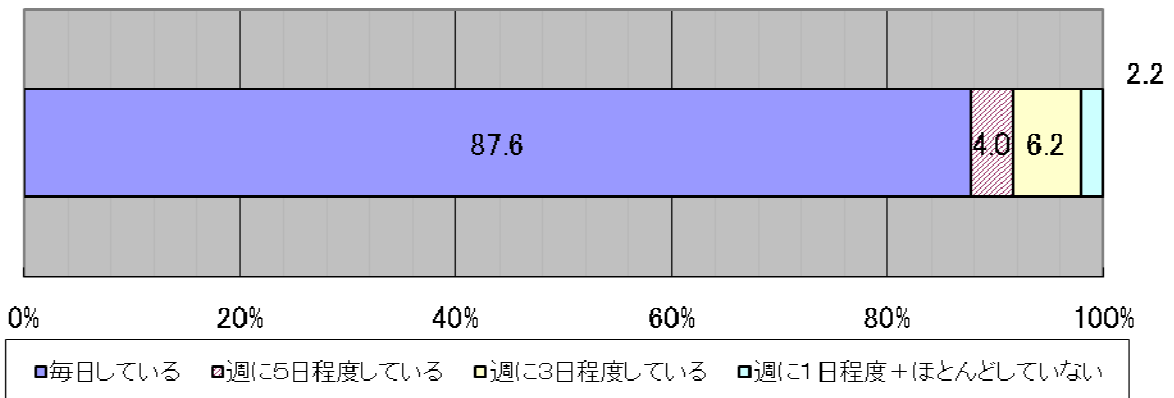
問26 どの程度子どもと話したり、一緒に食事をしたりしていますか？

(※ 限定質問のため、有効回答を対象とする)

対象施策：家庭教育の充実
 成果指標：子どもとコミュニケーションが取れている世帯の割合
 調査結果：97.8%（20～59歳までの有効回答者のうち「週3日程度」以上と答えた人の割合）[94.8%]

- 全体では266人から回答があったが、60歳以上の者40人が含まれているため、成果指標としては、20～59歳までの有効回答者のうち「週3日程度」以上と答えた人の割合とした。今回の調査では226人中221人で、97.8% [94.8%] である。
- この結果から、多くの親が子どもと接する機会を持つように努めていることがうかがわれる。

子どもとの会話や食事の頻度(20歳から59歳のみ集計)



< 家族と同居をしている方への質問 >

問27 朝食と夕食を家族と一緒に取ることはどのくらいありますか？

(対象：家族と同居する 887 世帯)

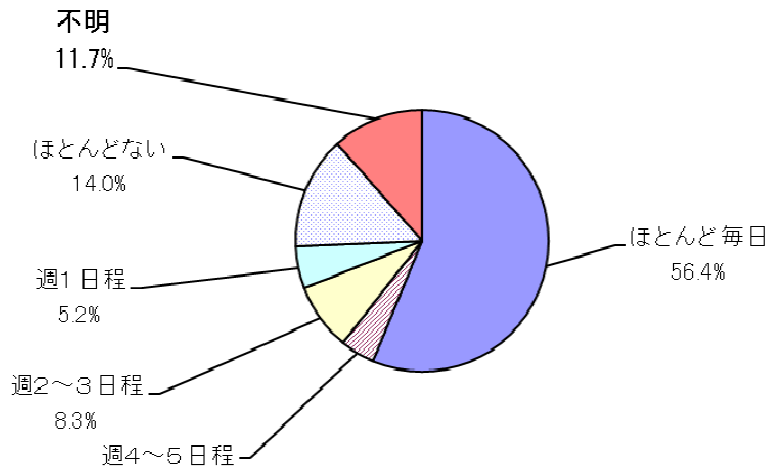
対象施策：心と体の健康づくり

成果指標：朝食と夕食を家族と一緒に取っている世帯の割合

調査結果：朝食 56.4%[55.9%]、夕食 62.1%[59.5%] (家族と同居している回答者のうち「ほとんど毎日」と答えた人の割合)

- 問6から、今回の調査回答者のうち家族と同居する世帯は 887 (夫婦だけ：240、二世帯世帯：435、三世帯世帯：189、その他：23) となっている。そこで、この世帯数を対象にして家族と一緒に朝食や夕食を取る割合を求めることにした。

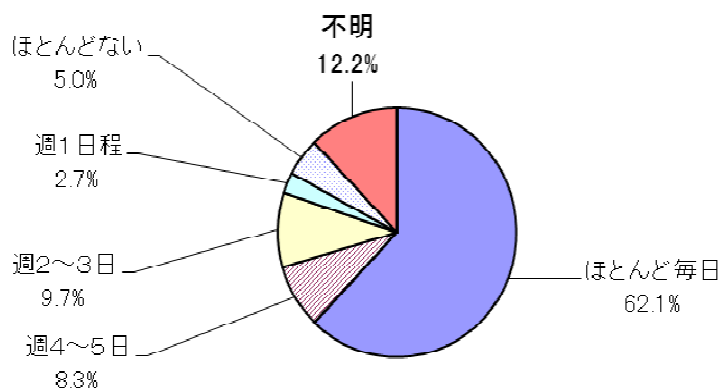
家族と一緒に食事を取る頻度【朝食】



- 朝食は、「ほとんど毎日」：56.4%[55.9%] (女性：57.7%[63.7%]、男性：55.0%[46.8%]) で、「週に4~5日程」「週に2~3日程」「週に1日程」「ほとんどない」と答えた回答者：31.9%[31.5%] (女性：29.9%[25.1%]、男性：34.4%[38.8%]) を上回った。
「ほとんど毎日」と答えた人を年代別で見ると、60歳代が60.7%と最も高く、逆に20歳代は50.9%と低くなっている。

- 夕食は、「ほとんど毎日」：62.1%[59.5%] (女性：65.2%[66.4%]、男性：58.3%[51.1%]) で、「週に4~5日程」「週に2~3日程」「週に1日程」「ほとんどない」と答えた回答者：25.7%

家族と一緒に食事を取る頻度【夕食】



- 「ほとんど毎日」と答えた人を年代別で見ると、どの年代でも概ね60%前後となっており、朝食よりは高い傾向にある。(最高値：60歳代63.8%、最低値：70歳代56.7%)

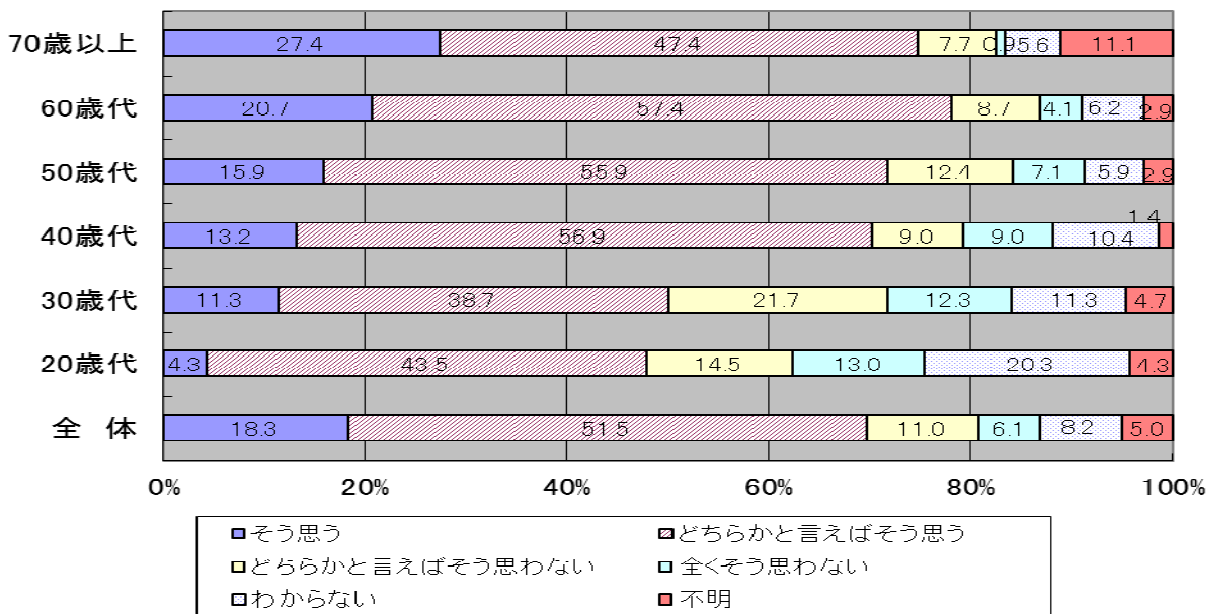
< 飯田市の政策や運営、職員について >

問28 市役所からのお知らせや市政の情報など、必要とする情報を充分入手できていると思いますか？

対象施策：情報共有の促進
 成果指標：知りたい行政の情報が充分に入手できていると感じている市民の割合
 調査結果：69.8%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[68.7%]

- 「そう思う」：18.3% [17.6%]、「どちらかと言えばそう思う」：51.5% [49.3%]を合わせて 69.8% [68.4%]（女性：68.8% [69.5%]、男性：68.6% [67.1%]）となり、6割以上の人は必要とする情報を入手できていると考えていることを示している。
- 年代別で見ると、40歳代以上は70%を超えているが、年齢層に比例して若くなるほど数値が低くなり、30歳代50.0%、20歳代47.8%となっている。

市政の情報など必要な情報を充分入手できている

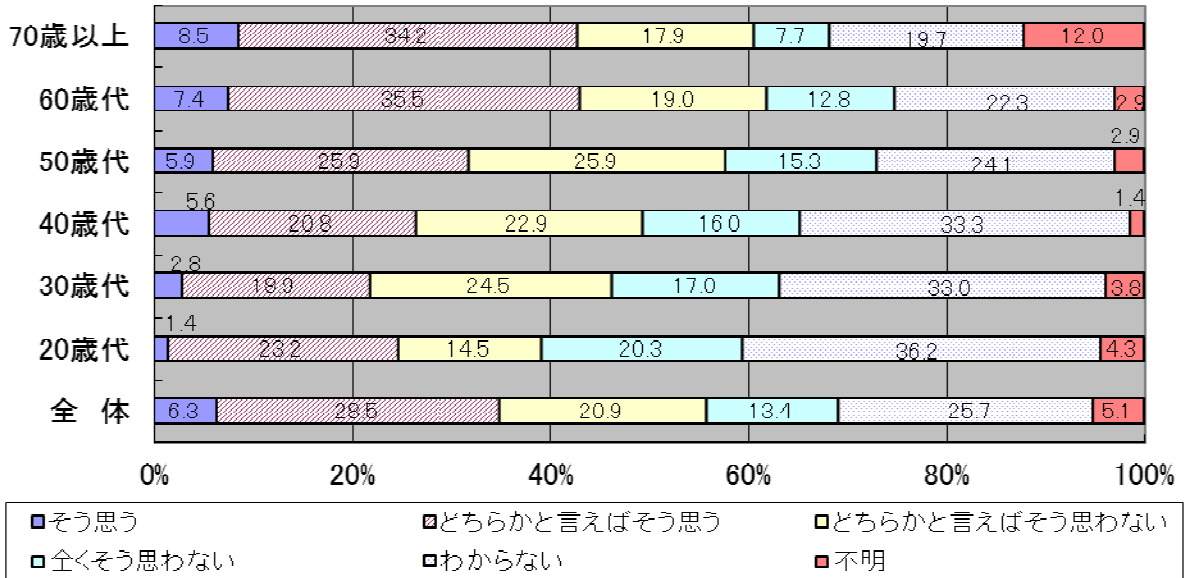


問29 市民が市政について要望等を言える機会が設けられていると思いますか？

対象施策：情報共有の促進
 成果指標：市民の意見が行政に反映されていると認識している市民の割合
 調査結果：34.8%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[35.4%]

- 「そう思う」：6.3% [5.7%]と「どちらかと言えばそう思う」：28.5% [29.7%]を合わせて 34.8% [35.4%]（女性：33.0% [31.0%]、男性：37.1% [40.3%]）であり、「どちらかと言えばそう思わない」：20.9% [22.0%]と「全くそう思わない」：13.4% [14.9%]の計 34.3% [36.9%]（女性：31.9% [35.4%]、男性：37.7% [38.9%]）と、そう思わない人が上回った。
- 年代別に見ると、「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」人は、60歳以上が40%を超えているのに対して、40歳代より低い年代では20%台と低くなっている（最高値：60歳以上43.0%、最低値：30歳代21.7%）。

市民が市政に要望等を言える機会が設けられている

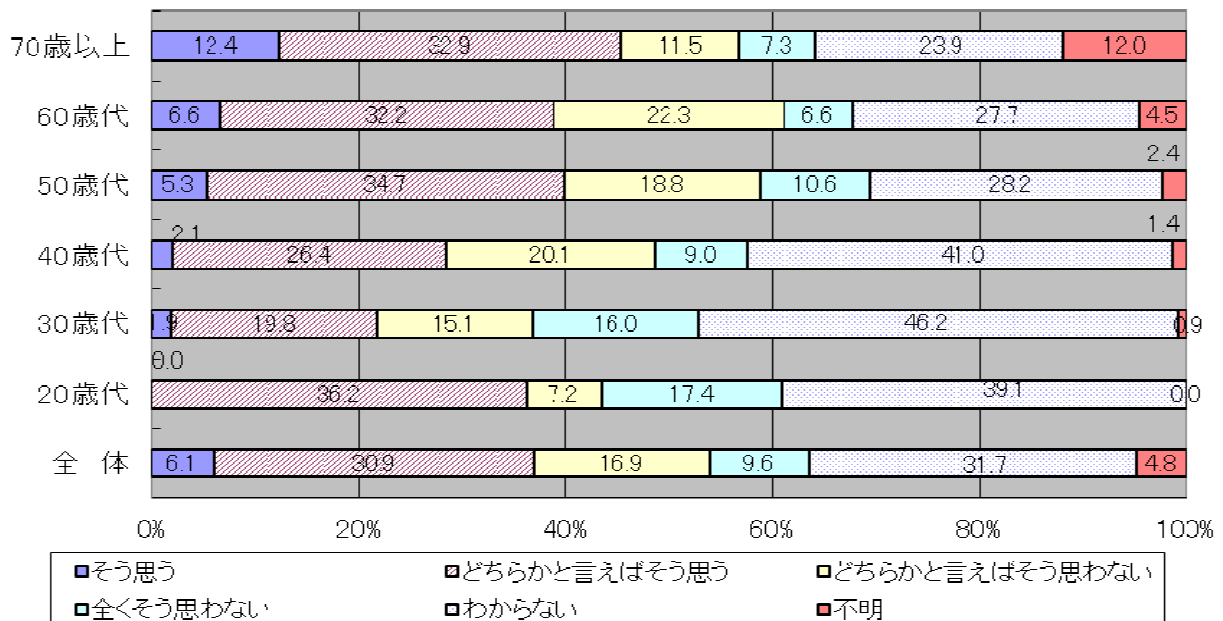


問30 市民と行政による協働のまちづくりが進められていると思いますか？

対象施策：市民参画による協働の促進
 成果指標：協働のまちづくりが進められていると感じている市民の割合
 調査結果：37.0%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[39.4%]

- 「市民と行政による協働」という市政運営の基本的な概念について質問したが、全体では、「進められていると思う」：37.0% [39.4%]（女性：33.8% [36.5%]、男性：40.7% [42.4%]）、「進められていると思わない」：26.5% [25.0%]（女性：23.2% [20.0%]、男性：30.6% [31.2%]）で、「進められている」が上回った。ただし、「わからない」との回答が31.7% [29.6%]（女性：37.5% [37.1%]、男性：24.8% [21.3%]）あった。
- 進められていると思う人の割合を年代別で見ると、概ね各世代で40%前後の数値となっているなか、30・40歳代は20%台と著しく低い数値となっている。また「わからない」と回答している年齢層も30歳代46.2%と最も多い。

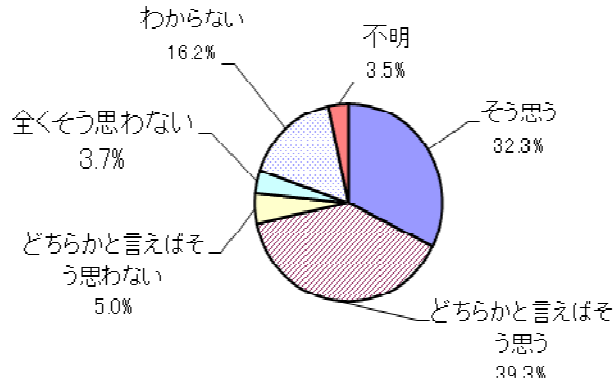
市民と行政による協働のまちづくりが進められている



問3 1 飯田市にとって三遠南信地域・中京圏との交流が重要だと思いますか？

対象施策：三遠南信・中京圏の連携推進
 成果指標：三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合
 調査結果：71.6%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[71.4%]

- 「そう思う」:32.3% [34.6%]、**三遠南信地域・中京圏との交流が重要だと思う**「どちらかと言えばそう思う」:39.3% [36.8%] で、合わせて 71.6% [71.4%]（女性：67.3% [67.4%]、男性：76.6% [78.4%]）となり、7割以上が重要と思っている。
- 重要と思っている人の割合を年代別で見ると、年代が上昇するにつれて、数値も上昇している。（最高値：60歳代76.9%、最低値：30歳代57.5%）

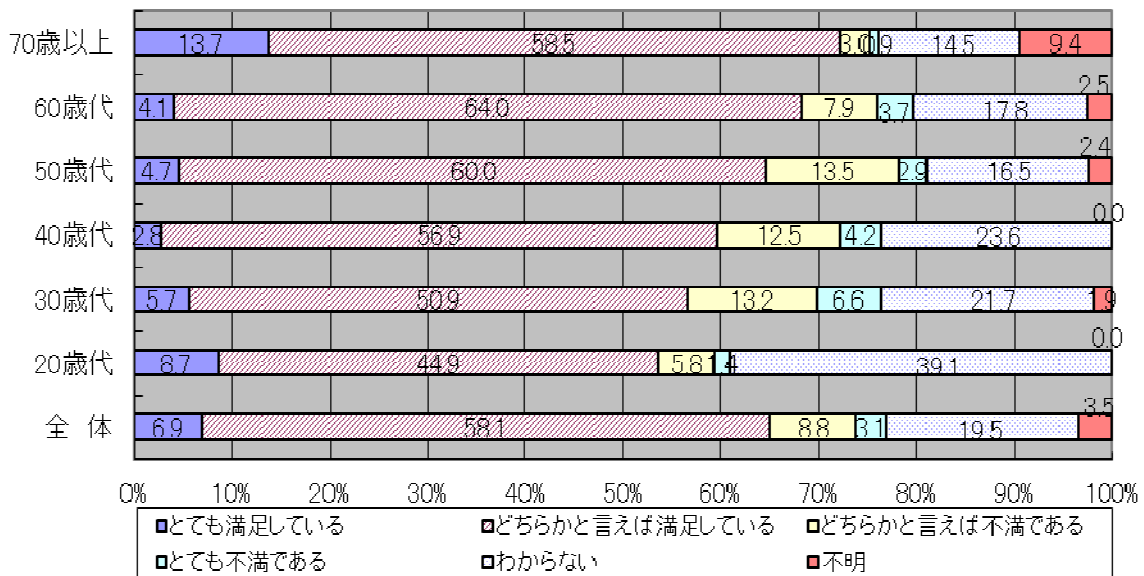


問3 2 市役所の行政サービスに関する申請手続きや方法に満足していますか？

対象施策：良質な行政サービスの提供
 成果指標：市役所の行政サービスに関するシステムに満足している市民の割合
 調査結果：65.0%（「とても満足している」＋「どちらかと言えば満足している」の割合）[62.1%]

- 「とても満足している」:6.9% [7.3%]、「どちらかと言えば満足している」:58.1% [54.8%]で、合わせて65.0%[62.1%]（女性:62.8% [57.8%]、男性:67.6% [67.1%]）が「満足している」と回答している。
- 一方、「どちらかと言えば不満である」:8.8% [10.6%]、「とても不満である」:3.1% [3.4%]で、合わせて11.9%[14.0%]（女性:12.1% [14.6%]、男性:11.8% [13.3%]）の市民が市役所の行政サービスに関するシステムに不満を持っている。
- 「満足」の割合を年代別で見ると、概ね若い世代ほど割合が低くなる傾向にある。（最高値：70歳代72.2%、最低値：20歳代53.6%） また、「わからない」と答える人の割合も比較的若い世代に多く、20歳代では39.1%となっている。

市役所の行政サービスに関する申請手続きや方法への満足度

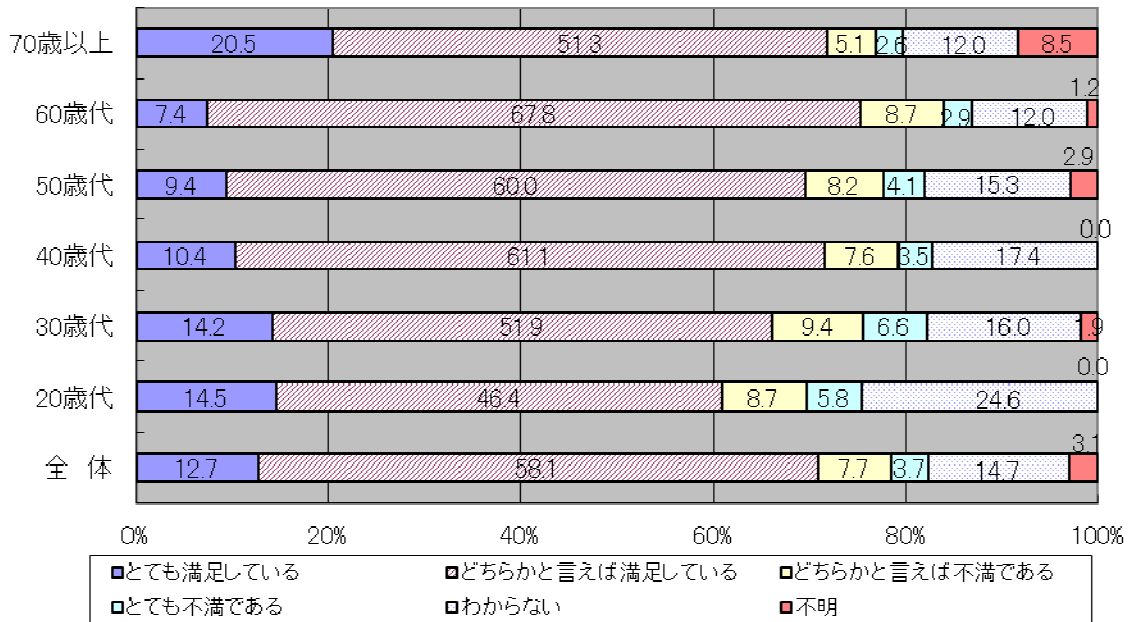


問33 市役所の職員の対応に満足していますか？

対象施策：良質な行政サービスの提供
 成果指標：行政サービスにあたる市役所職員の対応に満足している市民の割合
 （職員の資質・待遇等）
 調査結果：70.8%（「とても満足している」＋「どちらかと言えば満足している」の割合）[66.5%]

- 「とても満足している」:12.7%[11.9%]、「どちらかと言えば満足している」:58.1%[54.6%]で、合わせて70.8%[66.5%]（女性：70.0%[65.1%]、男性：72.0%[71.0%]）が「満足している」と回答している。
- 一方、「どちらかと言えば不満である」:7.7%[9.8%]、「とても不満である」:3.7%[3.4%]で、合わせて11.4%[13.2%]（女性：11.7%[14.5%]、男性：10.7%[12.0%]）の市民が市役所の行政サービスに関するシステムに不満を持っている。
- 「満足」の割合を年代別で見ると、年代層に比例して割合が上昇していく（最高値：60歳代75.2%、最低値：20歳代60.9%）。また、「わからない」と答える人の割合も比較的若い世代に多く、20歳代では4人に1人がわからないと回答した。

市役所の職員の対応への満足度



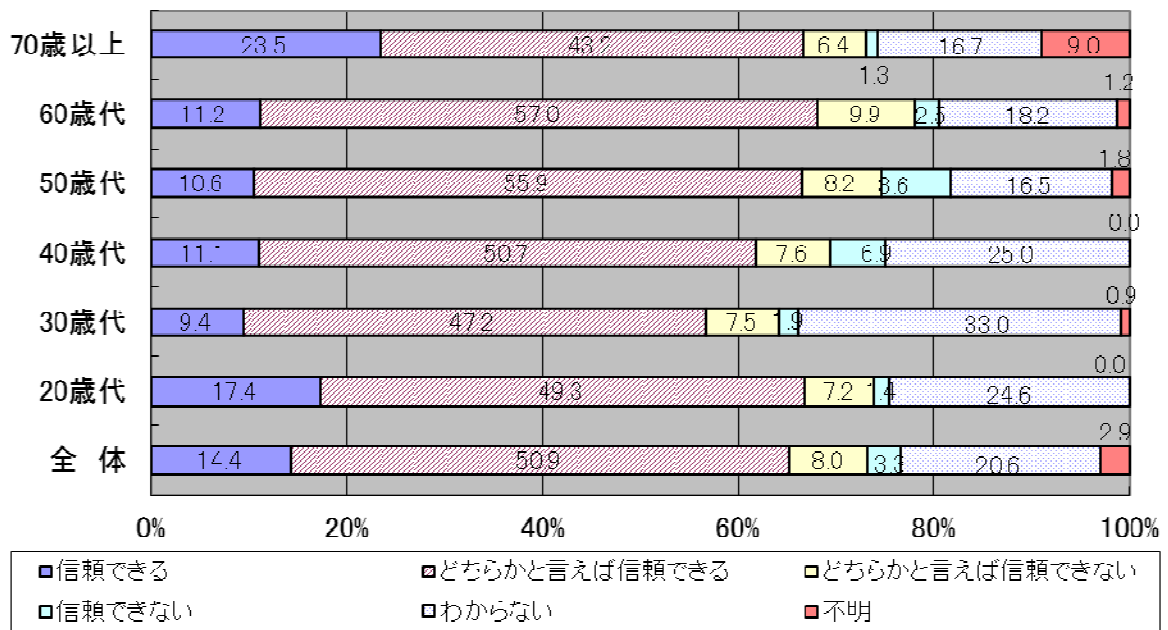
問34 市で行っている事業や住民サービス全般に対して信頼していますか？

対象施策：評価や監査による信頼の確保
 成果指標：市役所を信頼できると感じている市民の割合
 調査結果：65.3%（「信頼できる」＋「どちらかと言えば信頼できる」の割合）[67.6%]

- 「信頼できる」:14.4%[15.9%]、「どちらかと言えば信頼できる」:50.9%[51.7%]で、合わせて65.3%[67.6%]（女性：64.5%[65.7%]、男性：66.2%[70.4%]）が「信頼できる」と回答している。
- 一方、「どちらかと言えば信頼できない」:8.0%[6.4%]、「信頼できない」:3.3%[2.4%]で、合わせて11.3%[8.8%]（女性：9.0%[7.5%]、男性：13.9%[10.3%]）の市民が「信頼できない」としている。
- 「信頼」の割合を年代別で見ると、概ね若い世代ほど割合が低くなっている（最高値：60歳代68.2%、最低値：30歳代56.6%）。また、「わからない」の割合も比較

的若い世代に多く、30歳代では3人に一人が「わからない」としている。全体でも20.6%[19.5%]と高い数値を示している。

市の事業や住民サービス全般に対して信頼している

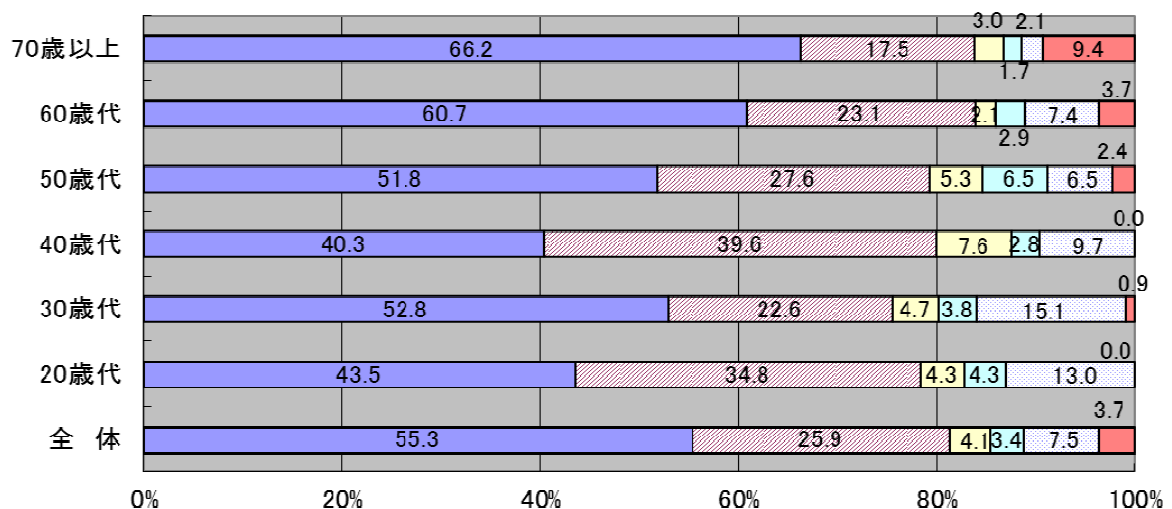


問35 これからも飯田市に住み続けたいと思いますか？

調査結果：81.2%（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」の割合）[81.5%]

- 「そう思う」：55.3% [52.4%]、「どちらかと言えばそう思う」：25.9% [29.0%]で、飯田市に住み続けたいと思う市民の割合は、81.2% [81.5%]（女性：80.9% [81.9%]、男性：81.7% [81.3%]）と高い割合を示している。
一方、「どちらかと言えばそう思わない」：4.1% [4.9%]、「全くそう思わない」：3.4% [2.5%]で、住み続けたいと思わない市民の割合は、合せて7.5% [7.4%]（女性：7.7% [7.2%]、男性：7.2% [7.8%]）であった。
- 「住み続けたい」割合を年代別に見ると、年代の上昇に比例して率が上昇していく（最高値：60歳代83.9%、最低値：30歳代75.4%）。

これからも飯田へ住み続けたいと思う



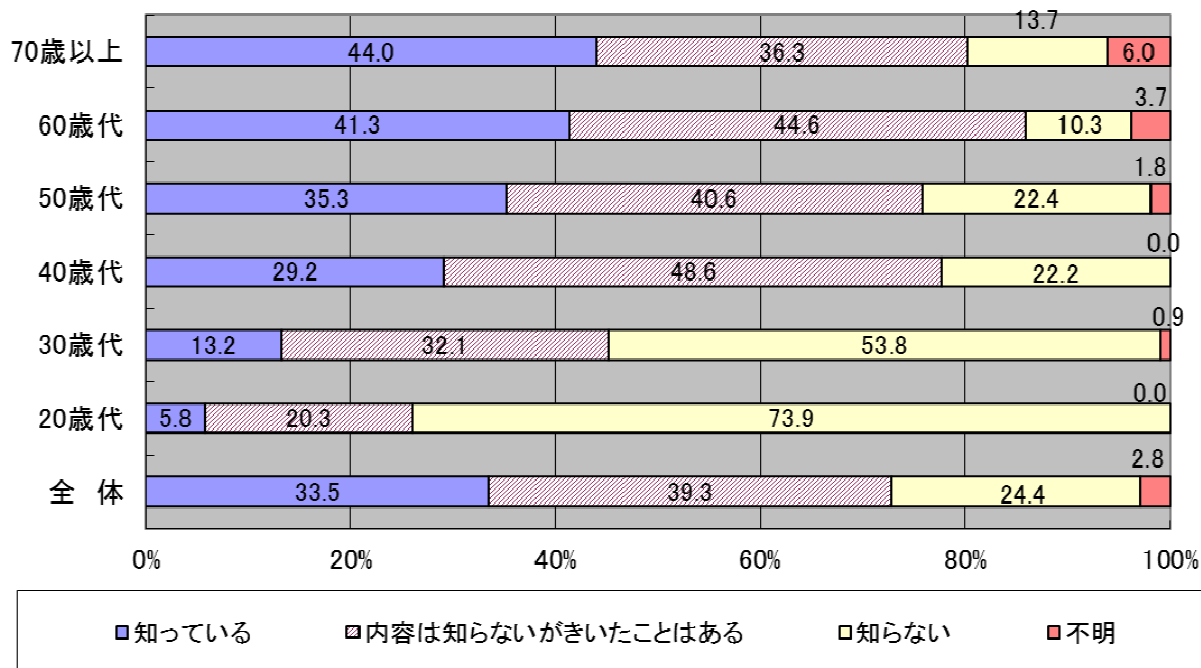
□そう思う □どちらかと言えばそう思う □どちらかと言えばそう思わない □全くそう思わない □わからない □不明

※問36 飯田の「ムトス」という言葉を知っていますか？

調査結果：72.8%（「知っている」＋「内容は知らないが聞いたことはある」の割合）

- 「知っている」：33.5%、「内容は知らないが聞いたことはある」：39.3%で、飯田の「ムトス」という言葉を知っている市民の割合は、72.8%（女性：72.8%、男性：72.7%）と7割以上の高い数値となっている。
- 年代別では、60歳以上が86.0%と最も高く認知度が高い。年齢とともに比例して率が上昇していく。
- 40歳以上は75%以上の認知度であるのに対し、30歳代は45.3%、20歳代は26.1%と極めて低い。

飯田の「ムトス」と言う言葉を知っていますか



市民意識調査結果 成果指標でみた10年間の推移

※欄外の記号：平成19年度対比10%以上増減「↑」「↓」、同20%以上増減「↑↑」「↓↓」、同30%以上増減「↑↑↑」「↓↓↓」

問No.	成果指標	分野	年度											H19対比	
			H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	対前年		
7-1	文化芸術活動を行っている人の割合	文化芸術や学習の活動	26.0	25.2	24.2	22.6	23.1	24.1	26.6	24.4	24.2	22.6	93%	87%	↓
7-2	学習活動を行っている市民の割合		29.0	26.0	25.4	25.5	25.9	24.9	27.7	25.6	26.3	25.6	97%	88%	↓
7-2	7-1の一部を含む市民の割合		39.5	36.6	36.6	34.6	34.4	34.9	37.3	36.0	35.5	38.1	107%	96%	
7-3	家族や職場以外で交流がある市民の割合	家族での参加 地域内や他地域との交流	43.8	40.6	42.2	43.5	38.7	41.6	43.3	40.2	42.5	43.1	101%	98%	
7-4	地域行事・地域活動に親子で参加している割合(子を持つ世帯に限定)		41.6	42.3	42.3	46.2	55.0	55.2	56.4	50.8	50.7	50.8	100%	122%	↑↑
7-5	都市間交流に参加している市民の割合(三遠・中京圏等)		9.2	8.8	10.3	9.2	9.1	10.0	9.2	9.1	10.5	8.9	85%	97%	
7-6	都市間交流に参加している市民の割合(三遠・中京圏以外)		12.9	11.1	12.4	13.8	11.8	12.9	11.1	11.0	13.2	9.4	71%	73%	↓↓
8	ウォーキングやスポーツを行っている市民の割合	スポーツ活動	35.7	38.5	37.8	34.7	37.3	38.1	38.8	36.0	38.8	35.6	92%	100%	
9	環境学習会に参加したことのある市民の割合	環境活動	22.9	20.7	22.4	23.9	22.1	21.9	24.3	20.6	21.3	21.8	102%	95%	
10	文化や芸術の鑑賞をした市民の割合	文化芸術鑑賞	63.8	66.2	64.1	63.5	62.7	60.6	58.5	54.0	54.3	63.0	116%	99%	
11	心身ともに健康であると感じている市民の割合	健康医療	61.8	63.0	64.4	66.3	66.0	66.0	66.5	66.4	66.0	66.2	100%	107%	
12	かかりつけ医を持つ市民の割合		62.3	64.6	70.8	69.1	71.4	71.7	70.3	69.7	73.2	105%	117%	↑	
13	必要な医療が受けられていると感じる市民の割合		74.4	76.1	77.6	79.5	83.9	84.9	85.2	84.2	82.3	85.6	104%	115%	↑
14	日常生活の中で人権尊重意識を持っている人の割合(「行動している」のみ)	人権意識	47.2	43.9	43.6	43.4	47.6	46.1	44.6	43.7	41.7	46.8	112%	99%	
14	日常生活の中で人権尊重意識を持っている人の割合(含:「どちらか……」)		90.7	89.9	93.2	92.6	93.1	92.1	91.9	92.1	92.4	92.7	100%	102%	
15	市民が災害に備えている割合(下記①～③で「はい」と答えた平均値)※2	防災	41.1	43.0	44.8	44.2	48.7	51.2	44.5	43.7	44.8	44.2	99%	108%	
15	市民が災害に備えている割合(下記①～④で「はい」と答えた平均値)※2		/	/	50.0	50.0	54.8	56.5	51.9	50.9	51.4	51.4	100%	/	
15-①	災害時に避難場所や災害情報を得る方法を知っている市民の割合		68.8	71.0	72.7	70.6	74.5	77.1	77.3	77.4	78.5	80.6	103%	117%	↑
15-②	3日分程度の食料や飲料水を準備している割合【H24まで】		27.4	30.1	30.3	30.4	35.8	38.4	/	/	/	/	/	/	
15-②	7日分以上の食料や飲料水を準備している割合【H25以降】		/	/	/	/	/	/	18.1	19.0	19.0	18.0	95%	/	
15-③	家具の転倒防止策をしている人の割合		27.2	27.9	31.3	31.6	35.7	38.2	38.2	34.6	36.9	34.1	92%	125%	↑↑
15-④	火災警報器を備えている人の割合【H21以降】	/	/	65.5	67.4	72.9	72.5	74.0	72.8	71.1	72.9	103%	/		
16	近隣で支え合いができていない市民の割合	防災(共助・福祉)	72.8	71.7	74.1	73.0	72.4	73.8	75.7	76.2	76.7	73.1	95%	100%	
17	安心して暮らせている高齢者の割合(65歳以上に限定)	高齢者福祉	51.9	58.0	53.1	61.7	59.6	63.3	64.6	57.5	59.6	62.9	106%	121%	↑↑
18	いきいき暮らせている高齢者の割合(65歳以上に限定)		71.6	73.4	74.1	73.0	71.8	72.0	72.5	69.9	72.0	68.1	95%	95%	
19	何らかの社会活動に参加している市民の割合	ボランティア	55.3	60.5	60.3	60.9	61.6	59.7	59.0	58.3	59.9	60.0	100%	108%	
20-1	ふるさとを誇りに思っている市民の割合	ふるさと意識	73.5	73.7	76.5	75.9	77.2	75.5	72.8	76.4	74.3	73.4	99%	100%	
20-2	市内の移動に不便を感じている市民の割合(道路)※1	道路公共交通	50.7	46.7	46.3	44.7	48.9	45.0	45.3	43.8	46.5	43.0	92%	85%	↑
20-3	市内の移動に不便を感じている市民の割合(交通機関)※1		40.5	42.1	39.0	38.5	45.6	44.2	46.3	42.1	46.4	44.9	97%	111%	↓
20-4	居住基盤の満足度	居住基盤 自然環境	72.7	75.5	75.5	79.1	80.7	79.1	80.1	82.9	83.2	77.4	93%	106%	
20-5	身近な自然は守られていると感じる市民の割合		58.4	60.7	61.8	63.2	64.6	64.2	65.4	63.4	68.0	66.7	98%	114%	↑
21	市外の人に紹介したいものがあると答えた市民の割合	地域の誇り	42.5	44.6	43.0	41.8	45.6	44.9	44.5	45.2	45.0	42.1	94%	99%	
22	地域の現状を共有できた市民の割合	現状認識の共有	66.8	66.0	66.1	61.7	66.7	66.8	66.9	64.2	66.3	65.6	99%	98%	
24	子どもを産みやすい社会環境であると感じている対象者の割合(20～49歳に限定)	子育て	15.0	26.5	30.4	33.8	29.9	36.5	32.8	33.9	39.5	32.0	81%	213%	↑↑
25	子どもを育てやすい社会環境であると感じている対象者の割合(子育てをしている人限定)		45.8	60.7	62.9	66.4	61.4	63.8	61.1	59.5	61.4	65.4	107%	143%	↑↑
26	子どもとコミュニケーションが取れている世帯の割合		96.5	97.6	96.0	95.9	96.1	96.5	94.7	96.2	94.8	95.4	101%	99%	
27	家族と一緒に食事を取る市民の割合【朝食】(家族と同居する人限定)	健康づくり	/	/	/	/	/	59.7	60.2	55.4	55.9	56.4	101%	/	
27	家族と一緒に食事を取る市民の割合【夕食】(家族と同居する人限定)		/	/	/	/	/	61.9	63.7	61.3	59.5	62.1	104%	/	
28	知りたい行政の情報が充分に入手できていると感じている市民の割合	行政との関係 ・情報入手 ・意見反映 ・市民との協働 ・他地域交流 ・行政手続等 ・職員の対応等	64.4	63.3	62.8	62.8	61.8	66.9	67.0	68.4	68.7	69.8	102%	108%	
29	市民の意見が行政に反映されていると認識している市民の割合		30.5	32.2	34.3	29.2	31.1	34.9	36.4	34.9	35.4	34.8	98%	114%	↑
30	協働のまちづくりが進められていると感じている市民の割合		33.8	36.9	38.1	31.9	35.3	40.5	38.2	40.1	39.4	37.0	94%	109%	
31	三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合		73.1	74.5	72.2	71.3	69.5	72.1	71.9	72.2	71.4	71.6	100%	98%	
32	市役所の行政サービスに関するシステムに満足している市民の割合(手続き・方法等)		/	/	/	/	59.9	62.5	61.0	62.2	62.1	65.0	105%	/	
33	行政サービスにあたる市役所職員の対応に満足している市民の割合(職員の資質・接遇等)		市役所の信頼性	60.8	60.9	61.0	62.5	65.5	66.1	68.1	65.9	66.5	70.8	106%	116%
34	市役所を信頼できると感じている市民の割合		59.0	60.2	62.4	62.1	61.0	65.1	64.2	66.7	67.6	65.3	97%	111%	↑
35	これからも飯田市に住み続けたいと思う市民の割合	総合	79.4	82.8	82.8	82.0	80.1	83.4	81.8	83.2	81.5	81.2	100%	102%	

※1 No.20-2、20-3は、指標値が低いほど好ましいもの

※2 No.15は、平成25年から②の基準を高めたため、過去の数値と単純に比較すべきではない。